

履修の手引き

令和8年度（2026年度）入学生用

農学部

この手引きには、学習の計画を立てるため、そして卒業するために必要な情報がたくさん書かれています。

【 内 容 】

- I 科目履修に当たって知っておくべきこと
- II 教養教育について（獣医学部を除く）
- VI 専門教育について【農学部】
- VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法
- IX 国際教育科目について
- X その他プログラムについて
- XI 関係法規等

※この手引きを読んで、わからないことがあったら
学生センターA棟1F窓口にご相談に来てください。
※この手引きは卒業まで大切に保管してください。



国立大学法人

岩手大学

IWATE UNIVERSITY

令和8年度（2026年度）行事日程

前期	4月	2日（木）		外国人留学生オリエンテーション
		6日（月）		学部新入生学生証等配付
		7日（火）		入学式 編入学生オリエンテーション
		8日（水）		学部新入生オリエンテーション 新入生交流会（新入生歓迎実行委員会主催）
		8日（水）～10日（金）	前期履修申告	
		9日（木）～10日（金）		定期健康診断（学部の令和8年4月入学生）
		中旬		[奨学金]在籍報告 （前年度からJASSO給付奨学金を継続する方）
		14日（火）	授業開始【前期・クォーター（ ）】	
		14日（火）～20日（月）		定期健康診断（学部の令和8年4月入学生以外）
		14日（火）～20日（月）	履修申告訂正	
		30日（木）	水曜授業日	
		5月	8日（金）	月曜授業日
8日（金）～14日（木）	履修申告取消期間			
16日（土）			盛岡・つなぎ間ロードレース大会	
20日（水）			前期授業料口座引落日	
6月	1日（月）		開学記念日	
	8日（月）	クォーター（ ）補講日		
	9日（火）	授業開始【クォーター（ ）】		
7月	19日（金）～25日（木）	クォーター（ ）科目履修申告取消期間		
	21日（火）	月曜授業日		
	29日（水）～8月4日（火）	前期・クォーター（ ）補講日		
8月	中旬		[奨学金]前期授業料免除結果通知	
	7月29日（水）～4日（火）	前期・クォーター（ ）補講日		
	5日（水）～9月30日（水）	夏季休業		
	6日（木）		オープンキャンパス	
9月	8日（土）～17日（月）		全学一斉休業（閉庁）	
	8月5日（水）～30日（水）	夏季休業		
	18日（金）	前期成績発表		
	25日（金）		9月卒業式	
後期	10月	29日（火）～10月1日（木）	後期履修申告	
		9月29日（火）～1日（木）	後期履修申告	
		1日（木）		10月入学式
		5日（月）	授業開始【後期・クォーター（ ）】	
		5日（月）～9日（金）	履修申告訂正	
		16日（金）	全学休講	
	11月	17日（土）～18日（日）		大学祭
		20日（火）～26日（月）	履修申告取消期間	
		18日（水）	金曜授業日	
	12月	19日（木）	全学休講	
		20日（金）	全学休講	[入試]学校推薦型選抜 後期授業料口座引落日
		1日（火）	クォーター（ ）補講日	
		2日（水）	授業開始【クォーター（ ）】	
		中旬		[奨学金]後期授業料免除結果通知
		中下旬		[奨学金]継続願 （次年度もJASSO賞与奨学金を継続する方）
	1月	14日（月）～18日（金）	クォーター（ ）科目履修申告取消期間	
		23日（水）～1月4日（月）	冬季休業	
		28日（月）～1月3日（日）		全学一斉休業（年末年始休業）
		12月23日（水）～4日（月）	冬季休業	
		12月28日（月）～3日（日）		全学一斉休業（年末年始休業）
	2月	12日（火）	月曜授業日	
		13日（水）	金曜授業日	
		14日（木）～15日（金）	全学休講	
		16日（土）～17日（日）		大学入学共通テスト
3月	5日（金）～12日（金）	後期・クォーター（ ）補講日		
	12日（金）	木曜授業日（補講日）		
	19日（金）～24日（水）		入試準備日	
3月	25日（木）～26日（金）		[入試]一般選抜（前期）	
	9日（火）～11日（木）		入試準備日	
	12日（金）		[入試]一般選抜（後期）	
	19日（金）	後期成績発表		
3月	23日（火）		卒業式	
	24日（水）～31日（水）	春季休業		

上記の日程は変更になる場合があります。日程の変更及び令和9年度以降の日程は、アイアシスタントでお知らせします。

試験期間は特に設けませんので、試験については授業担当教員の指示に従ってください。

以下の日は、事務窓口が開いていないため事務手続き等（証明書自動発行含む）は行えません。

土曜日、日曜日、祝日（授業実施日含む）、全学一斉休業日及び入試等により入構できない日

目次

令和8年度（2026年度）行事日程

科目履修に当たって知っておくべきこと

1 大学の目的・教育目標	- 1
2 学期区分	- 1
3 本学の履修科目及び履修時期	- 2
4 授業科目の単位	- 3
5 成績評価	- 4
6 授業時間	- 4
7 時間割表の見方	- 4
8 総合学修支援システム	- 5
9 履修の申告	- 5
10 履修科目登録単位の上限	- 6
11 他学部開講科目の履修	- 6
12 他大学の授業科目履修における単位認定	- 7
13 放送大学の授業科目履修における単位認定	- 8
14 資格試験等による単位認定	- 9
15 ボランティア活動による単位認定	- 10
16 試験	- 10
17 成績評価に異議がある場合の問い合わせ	- 11
18 成績優秀者	- 11
19 卒業時に授与される学位	- 12
20 3年以上4年未満での卒業（早期卒業）	- 12
21 長期履修学生制度	- 12
22 転学部制度	- 12
23 転学科・転課程制度	- 13
24 学部3年次修了者の本学大学院への入学	- 13
25 その他	- 13
参考 学生の修得すべき単位数	- 14
学籍番号	- 14
用語集	- 15
I ⁿ Assistant2.0 & WebClass & I ⁿ Folio	- 16

教養教育について（獣医学部を除く）

1 教養教育の理念	- 1
2 教養教育の教育目的と修得すべき能力	- 1
3 履修方法及び開設授業科目	- 6
4 選択について	- 10
参考 開設授業科目要件区分 / 標準履修学年・時期早見表	- 11
5 各学部の履修単位数及び履修方法	
農学部	- 19

履修の手引きの訂正等は、アイアシスタントや掲示版でお知らせします。

専門教育について【農学部】

農学部の理念と目標，教育目的	- 1
各学科等の教育目的，学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	- 1
1 岩手大学農学部教育課程規則	- 1 3
2 学生が修得すべき単位数	- 1 4
3 農学部専門教育科目履修表 各学科カリキュラムマップ	- 1 5

教育職員免許状・各種資格の取得方法

1 教育職員免許状の取得に当たって 農学部	- 1 - 2 0
2 その他各種資格の取得に当たって	- 2 2

国際教育科目について

1 国際教育科目の理念と教育目標	- 1
2 履修方法および開設授業科目	- 3

その他プログラムについて

1 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	X- 1
2 IHATOVグローバルコースについて	X- 2
3 イーハトーヴ協創コースについて	X- 4

関係法規等

- 1 岩手大学諸規則
- 2 関係法令

科目履修に当たって 知っておくべきこと

科目履修に当たって知っておくべきこと

1 大学の目的・教育目標

本学は、国立大学法人岩手大学学則において、次のことを「大学の目的」として掲げています。

真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを旨すとともに、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。

また、本学では教養教育と専門教育の調和を基本として、次のような資質・能力を兼ね備えた人材の育成を「教育目標」としてしています。

- (1) 幅広く深い教養と総合的な判断力を合わせ持つ豊かな人間性
- (2) 基礎的な学問的素養に裏打ちされた専門的能力
- (3) 環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対する基礎的な理解力
- (4) 地域に対する理解とグローバル化に見合う国際理解力
- (5) 柔軟な課題探求能力と高い倫理性

本学の学生の皆さんは、大学の目的・教育目標に基づき、それぞれ人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部、獣医学部に入学し、卒業するまでの4年間（獣医学部は6年間）に教養教育科目（獣医学部は共通教育科目）及び専門教育科目を履修し所定の単位を修得しなければなりません。

卒業に要する最低修得単位数は、教養教育科目が28単位、共通教育科目が30単位、専門教育科目が98～159単位です。

また、教育学部学校教育教員養成課程以外の学科・課程の学生が教育職員免許状を取得しようとする場合は、さらに教職教育科目を履修する必要があります。

獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。

なお、履修は全て単位制をとり、履修すべき授業科目については大幅に選択制がとられています。したがって、履修科目は、同じ学部・学科・課程であっても各人により異なる部分があります。

この複雑な科目履修制度をできるだけ早く理解し、目的が達せられる計画を立ててください。

ただし、本書の中では一般的な説明が主であるため、細部についてはクラス担任教員や教務担当教員などの指導を受けながら学修内容の全体をよく研究し、学修計画を立てるようにしてください。

2 学期区分

1年間を前期、後期の2期に分け、前期は4月1日～9月30日、後期は10月1日～3月31日となっています。（学則第32条）

3 本学の履修科目及び履修時期

本学の履修科目は、大別すると次のとおりです。

- ・ **教養教育科目**（技法知科目、学問知科目、探究知科目、実践知科目）

教養教育科目は1年次に多く開設しており、2年次、3年次と学年が進むにつれて履修する機会が減少しますので、低年次のうちに修得しておくことが推奨されます。

科目等の詳細については「[教養教育について](#)」を参照してください。

- ・ **共通教育科目**

共通教育科目は獣医学部のみ開設しています。

科目等の詳細については「[獣医学部について](#)」を参照してください。

- ・ **専門教育科目**

専門教育科目は各学部で開設しており、1年次には少なく、2年次、3年次と学年が進むにつれて増加します。科目等の詳細については各学部の項を参照してください。

- ・ **教職教育科目**

各学部（獣医学部を除く）で開設しており1～4年次で履修します。

履修方法は「[教育職員免許状・各種資格の取得方法](#)」を参照してください。

- ・ **国際教育科目**

国際教育科目は、外国人留学生を対象に英語で授業を行う科目ですが、日本人学生も履修することができます。詳細は「[国際教育科目について](#)」を参照してください。

4 授業科目の単位

大学では、授業と、授業時間外における学習（以下、授業外学修）を所定の時間満たすことで単位が認定されます。

端的には、高等学校では授業時間 = 単位でしたが、大学では授業 + 授業時間外の学習 = 単位となります。この授業時間外の単位認定に関わる学習のことを授業外学修と言います。

各科目の単位と必要な学修時間は、授業の種別によって以下の通り定められています。

	種別	授業 (分)	回数	単位	授業外学修 (時間)
教養教育科目 共通教育科目 (獣医学部)	外国語 健康・スポーツ 実習、演習	100	14	1	15
	実験	150	14	1	0
	講義	100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	実験、実習、実技など	100	14	1	15
		150	14	1	0
		150	28	2	0
		150	42	3	0
		300	7	1	0
	演習	100	7	1	30
		100	14	1	15
		100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	講義	100	7	1	30
	(グループワークなどが行 われることもあります)	100	14	2	60
専門教育科目 (獣医学部)	実習	135	15	1	0
		135	45	3	0
	講義	45	15	1	30
		(グループワークなどが 行われることもあります)	90	15	2

解説

例えば、教養教育科目の「外国語」は100分の授業が14回で1単位となり、授業以外に計15時間の授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）が必要になります。また、講義で14回2単位の科目は、授業以外に60時間の授業外学修が必要になります。

授業外学修時間の算出

大学設置基準第21条第2項により45時間の学修で1単位と規定されていることから、単位に応じて授業で不足する時間により授業外学修時間が得られます。本学では授業45分を1単位時間として計算し、標準的な90分（2単位時間）×15回＝1350分（30単位時間）を、100分×14回＝1400分で30単位時間と見なします。2単位科目は90時間の学修を必要としますので、授業時間の30単位時間を引いた残り60時間が授業外学修時間となります。

なお、獣医学部は90分（2単位時間）×15回で30単位時間と見なします。

5 成績評価

成績の評価方法は、試験、報告書、論文及び平常の成績（授業への参加度等）によって行われます。（学則第40条第2項）

成績の評価は、次のとおりです。

評 価		評 点
合格	秀	100点～90点
	優	89点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不合格	不可	59点～0点

なお、各科目の到達目標、具体的な成績の評価方法及び基準はシラバス（講義要目）に掲載されています。

6 授業時間

時限	1	2	3	4	5	6
時間	8:35～10:15	10:30～12:10	13:00～14:40	14:55～16:35	16:50～18:30	18:40～20:20

【獣医学部専門教育科目】

校時	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12
時間	8:40～10:10 (8:45～10:15)*	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:10～19:40

注（ ）*の時間は遠隔講義の時のみ

7 時間割表の見方

（1）教養教育科目

教養教育科目の授業時間割表を熟読し、履修してください。

1年次においては、所属学部学科及び課程毎に履修できる授業科目が指定されていますので、必ずその枠内で履修してください。指定された枠組で履修すれば2年間で教養教育科目の履修すべき単位数を修得できるよう設計されています。

履修申告者が多い場合は、履修を制限する場合があります。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口にお問い合わせください。

（2）獣医学部共通教育科目

獣医学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口にお問い合わせください。

（3）専門教育科目

所属学部毎に異なりますので、各学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口または 番窓口にお問い合わせください。

8 総合学修支援システム

本学では、大学での学修を支援するためのさまざまなシステムを利用しています。
(詳細は「[Iⁿ Assistant2.0 & WebClass & Iⁿ Folio \(アイアシスタント2.0 & ウェブクラス&アイフォリオ\)](#)」(- 16 ページ)を参照)

9 履修の申告

学期の初めには、必ず履修申告期間内に履修申告(授業科目の登録)をしなければなりません。申告をしないと授業を受けることができず、単位の修得もできません。忘れずに、必ず履修申告をしてください。

また、集中講義科目の中には、学期の途中に履修申告期間を設定する場合があります。その場合、履修申告の日程等はアイアシスタント等でお知らせします。

なお、前期は5月中旬、後期は10月下旬(学年暦参照)に履修申告をした科目を取り消すことができます(ただし、集中講義科目は原則開講日の2週間前まで)。詳細はアイアシスタント等でお知らせしますが、あくまでも取り消すだけで、他の科目へ変更することはできません。

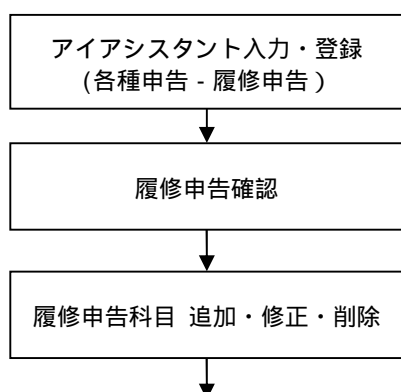
(1) 履修申告する際の注意事項

- ・「授業時間割」、「シラバス(講義要目)」、「履修の手引き」により、履修したい授業科目が自分の学部・学科(課程)・学年の受講対象となっているかよく確認してください。
- ・履修申告する際は、「授業時間割」に記載されている時間割コード(アルファベットと数字の6桁)を、正しく入力しているかよく確認してください。
- ・同じ授業科目でも、担当する教員によって時間割コードが違います。担当教員名を確認してください。
- ・同一時間に複数の授業科目を重複申告することはできません。
- ・履修登録できる単位数に上限があります。上限は、1学期につき24単位(編入学生及び成績優秀者は28単位)までです。詳細は、「[10 履修科目登録単位の上限\(CAP制\)](#)」を参照してください。

(2) 履修申告方法

- ・履修申告は、アイアシスタントから行ってください。
- ・集中講義は開講の都度、履修申告を行います。申告方法は掲示でお知らせします。

アイアシスタントから履修申告(集中講義の申告はできません。)

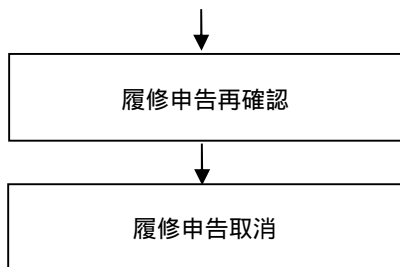


授業時間割表に基づいて、各自で履修計画を立て、**上限単位数を超えないように、履修する全科目をアイアシスタントにある各種申告の履修申告から入力してください。**

履修申告結果は、指定された日にアイアシスタントのMy時間割に表示されます。

各自で「**時限(校時)・科目名・時間割コード**」などが正確に登録されているかを必ず確認してください。

履修申告エラーがあった場合、または科目を追加・修正・削除したい場合には、指定された日までに、再度アイアシスタントにより、履修申告を訂正してください。



指定された日以降は、訂正できません。なお、履修申告の取消しは後述のとおりです。

履修申告結果をアイアシスタントで必ず確認してください。

学修上の理由で履修申告を取消したい場合、指定された履修取消期間に限りアイアシスタントより履修申告を取り消すことができます。

10 履修科目登録単位の上限（CAP制）

授業科目は、1単位当たり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする（学則第38条）とされています。

そのため、授業のみならず授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）の時間も加味した、無理のない学修計画を立てる必要があります。

本学では、学生が1学期間に履修登録できる単位数を次のとおり定めています。

（関係法規等「岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則」参照）

- ・履修登録単位数の上限は、1学期につき24単位までとする。
- ・履修登録単位数の上限の対象科目は、「卒業要件科目」とする。
ただし、卒業要件科目のうち、「集中講義の授業科目」、「教育実習」、「卒業・特別研究」、「いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換科目」、「放送大学における単位互換科目」は対象から除外する。
- ・教育学部学生の履修登録単位数の上限は、1学期につき28単位までになる場合がある。（-21ページを参照）
- ・成績優秀者及び編入学生の履修登録単位数は、1学期につき28単位を上限とする。（成績優秀者については「18 成績優秀者」を参照）
- ・教育職員免許取得希望者（教育学部学生を除く）が履修する教科に関する科目、教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目（参照）の登録単位数の上限は、「卒業要件科目」と合わせて1学期につき28単位までとする。ただしこの場合でも、「卒業要件科目」の登録単位数の上限は1学期につき24単位までとする。

11 他学部開講科目の履修

本学では、自分の所属する学部の専門教育科目だけでなく、他学部の専門教育科目についても、一定の条件のもと、その講義を受講し単位を修得することができます。修得した単位については、学部、学科・課程ごとに定める範囲で卒業に必要な単位として認定することができます。

他学部の学生が受講可能な授業科目や受講の条件等については、別途お知らせしますので、アイアシスタント等からのお知らせに注意してください。

1 2 他大学の授業科目履修における単位認定

本学では、多様な授業を受けられるよう他大学と単位互換に関する協定を結びました。講義を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので、その都度、アイアシスタント等でお知らせします。

区分		いわて高等教育コンソーシアム
協定校		岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、岩手保健医療大学、一関工業高等専門学校
身分		特別聴講学生
授業料等		入学料、授業料、検定料は無料 ただし、追・再試験の検定料は受講大学によっては必要な場合があります。
開講科目		開講校が許可した科目を受講することができます。詳細は、いわて高等教育コンソーシアムの「単位互換」ページで確認してください。
出願期間		前期：4月上旬 後期：7月上旬～8月下旬
卒業単位上限	教養教育科目	教養教育科目の選択の単位として認定します。 (獣医学部の共通教育科目は該当しません。) 人文社会科学部： 4単位まで 教育学部： 2単位まで 理工学部： 4単位まで 農学部： 4単位まで
	専門教育科目	学部によって自由選択科目または選択科目の単位として認められます。 詳細は、～の各学部専門教育のページを参照してください。

上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

1 3 放送大学の授業科目履修における単位認定

本学と放送大学は単位互換に関する協定を結び、放送大学の科目を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので、その都度、アイアシスタント等でお知らせします。

身分	特別聴講学生	
授業料等	1科目(2単位) 12,000円 授業料は改定される場合があります。	
開講科目	出願期間前に「開講科目一覧表」を掲示または配付します。	
出願期間	第1学期：1月中旬 第2学期：7月中旬	
卒業単 位上限	教養教育科目	単位互換できる科目は出願期間時にお知らせします。 ただし、単位互換科目は、教養教育科目及び専門教育科目両方合わせて30単位までです。
	専門教育科目	

この単位認定制度を利用するには、岩手大学を通して放送大学に特別聴講学生として入学する必要があります。

上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

放送大学の特別聴講学生は、テレビ(BS放送)やインターネットで配信される映像・音声の視聴または、本学の附属図書館内にある「放送大学岩手学習センター」において、DVDを視聴しての受講となります。

また、単位互換制度とは別に、放送大学の教材を利用して授業を開講する場合があります。この科目を受講するための授業料は無料ですが、受講する場合には、履修科目登録単位の上限に含まれます。開講については、アイアシスタント等でお知らせします。

1 4 資格試験による単位認定

本学では、資格試験で資格を取得又は一定以上の点数を得点した場合は、申請に基づき単位の認定を行います。単位が認定される資格等の種類、単位数は、下記の表のとおりです。

申請は、学生センター A 棟 番窓口で年 2 回（1 月、7 月）受け付けます。
詳しくはアイアシスタント等でお知らせします。

資格試験	資格	認定科目・単位数		認定単位数の上限	備考
		授業科目	単位		
英検 S - C B T	準 1 級		4	4	最も上級の資格により認定する。
実用英語技能検定試験	準 1 級	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	4	4	
	1 級		8	8	
T O E F L (マークシート式677点満点)	500～539点		2	2	
	540点以上	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	4	4	
T O E F L i B T (インターネット式120点満点)	61～75点		2	2	
	76点以上		4	4	
T O E I C	600～699点	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	2	2	
	700点以上		4	4	
ドイツ語技能検定試験	4 級	初級ドイツ語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級ドイツ語(入門・発展)	4	6	
		中級ドイツ語	2		
実用フランス語技能検定試験	5 級	初級フランス語(入門・発展)	2	2	
	4 級	初級フランス語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級フランス語(入門・発展)	4	6	
		中級フランス語	2		
ロシア語能力検定試験	4 級	初級ロシア語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級ロシア語(入門・発展)	4	6	
		中級ロシア語	2		
H S K (漢語水平考試) H S K I B T (H S K ネット試験)	2 級	初級中国語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級中国語(入門・発展)	4	6	
		中級中国語	2		
韓国語能力試験	TOPIK (1級～2級140点以上)	初級韓国語(入門・発展)	4	4	
	TOPIK (3級～6級120点以上)	初級韓国語(入門・発展)	4	6	
		中級韓国語	2		
「ハングル」能力検定試験	5 級	初級韓国語(入門・発展)	4	4	
	IBT 5 級				
	4 級以上	初級韓国語(入門・発展)	4	6	
	中級韓国語	2			

備考

- 1 認定した単位の評価は、「合」とする。
- 2 申請できる資格試験は、入学後に取得したもので、取得した日から1年以内のものに限る。
- 3 英語科目又はその他の外国語の資格試験において、先に下級の資格で認定を受けた者が、後に上級の資格を取得し願ひ出た場合は、先に認定を受けた単位数を差し引いて単位を認定する。なお、同一言語で複数の資格試験がある場合は、認定単位数の上限が高いほうを上級とみなす。
- 4 「再履修学生」とは、一度でも初級(入門)あるいは初級(発展)を履修した学生をいう。
- 5 T O E F L と T O E I C に関しては、T O E F L - I T P と T O E I C - I P も資格試験の対象とする。

資格試験による単位認定は、履修申告し受講している(した)授業の代わりになるものではありません。よって資格試験による単位認定により、履修申告した科目が自動的に取り消されたり、既に受講した授業の評価が更新されることはありません。

1 5 ボランティア活動による単位認定

本学の学内ボランティア活動で、一定時間数以上の研修、活動参加後、レポートを提出し、その活動が認定された場合は、「コミュニティーサポート実習」1単位が認定されます(各年度1単位までとし、最大2単位まで認定されます)。ただし、卒業要件単位には含まれません。

1 6 試 験

試験時における不正行為

試験において不正行為をすることは、真摯な態度で勉学に励むべき学生として許されない行為といえます。したがって、不正行為を行った者は、訓告処分を受けるだけでなく、不正行為が教養教育科目において行われたか専門教育科目において行われたかを問わず、当該学期の教養教育科目と専門教育科目の**全ての単位が認められません。**

また、通年科目については、不正行為が行われた学期・科目を問わず、当該年度の全ての単位が認められません。

不正行為を行った場合は、留年につながる厳しい処分が科せられます。

1 . 教養教育

試験期間は特に設けませんので、試験については担当教員の指示に従ってください。なお、試験当日の授業回は試験のみではなく、試験と併せて授業(振り返り等)が行われます。

(1) 試験についての注意事項

受験に際しては学生証を必ず持参し、机の上に置くこと。

万一学生証を忘れたときには、仮受験証での受験が認められるが、その場合には試験終了後3日以内に学生センターA棟 番窓口以学生証を持参して確認を受けること。これを怠った場合には、その答案は、無効となる。

原則として、遅刻は認められない。ただし、特別の事情があった場合には、10分程度の遅刻は考慮されることがある。

試験開始後20分間、退室は認められない。

答案用紙の姓名は、インク又はボールペン書きとする。

試験中、机の中には一切持ち物を置かないこと。なお、不正行為の材料となり得る物を持っていたり、机の中に入れていた場合には、それを使用したか否かにかかわらず、不正行為と見なされる。

試験中、不正行為を行った者は、厳しい処分を受ける。

試験中、監督者の指示に従わない者は、退室を命じられる。

申告しない又は正しい申告をしていない科目を受験しても、その答案は無効である。

(2) 追試験について

下記事項に該当する者で追試験を希望する者は、試験終了後、1週間以内に必要書類を添えて学生センターA棟 番窓口に願い出ることができます。

負傷又は疾病 (必要添付書類...医師の診断書等)

天災その他突発事故 (必要書類...その事由を証明する物)

忌引き (必要書類...死亡診断書の写し等)

列車等の遅延 (必要書類...遅延証明書)

その他特別に事情があると認められる場合(必要書類...その事由を証明する物)

願い出のあった者に対しては追試験受験願の理由が正当であり、かつ平素の出席状況が良好であって受験の資格があると認められた者に限り受験を許可します。

2. 専門教育

専門教育科目の試験についても、教養教育科目と同様に試験が実施されます。詳細は、担当教員の指示に従ってください。

1.7 成績評価に異議がある場合の問い合わせ

学期末(成績発表時)にアイフォリオで確認した成績評価が、シラバス(講義要目)の成績評価基準と照らし合わせた結果、成績評価に不明な点がある場合は、学務課経由で授業担当教員に問い合わせを行うことができます。問い合わせは、成績発表後一定の期間を設けますが、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

1.8 成績優秀者

成績優秀者とは、その学期において卒業要件科目を18単位以上修得し、かつ、卒業要件科目の総修得単位数のうち、「秀」および「優」の評語を単位数の点で10分の9以上得て、成績優秀者と認定された者をいいます。

成績優秀者に認定されると、次の学期の履修は、履修科目の登録の上限(1学期24単位)の例外として、28単位まで登録することができます。

なお、編入生の履修科目の登録の上限は、28単位ですので優秀者判定は行いません。

また、2年次後期までの全学期に成績優秀者として認定されると、早期卒業の申請をすることができます。(「2013年3年以上4年未満での卒業(早期卒業)」を参照)

1 9 卒業時に授与される学位

本学に4年以上(獣医学部は6年以上)在学し、かつ所定の科目の単位を修得した者に対し教授会の議を経て卒業を認定します。

卒業を認定された者には、次の学士の学位が授与されます。

人文社会科学部卒業生		学士(総合科学)	
教育学部卒業生		学士(教育)	
理工学部卒業生	理工学科	化学コース 数理・物理コース 材料科学コース	学士(理工学)
		知能情報コース クリエイティブ情報コース	学士(情報学)
		電気電子・情報通信コース 機械知能航空コース 社会基盤・環境工学コース	学士(工学)
農学部卒業生	食料農学科 生命科学科 地域環境科学科 動物科学・水産科学科	学士(農学)	
獣医学部卒業生	共同獣医学科	学士(獣医学)	

2 0 3年以上4年未満での卒業(早期卒業)

2年次後期までの全学期に成績優秀者(「1 8 成績優秀者」を参照)として認定された者で、4年未満の在学で卒業を希望する者は早期卒業を申請することができます。

申請が認められ、早期卒業候補者となった後も成績優秀であり、卒業要件の全単位を満たし、卒業研究(最終試験を含む。)の成績が秀または優であるときは、3年次終了時又は4年次前期終了時に卒業することができます。(関係法規等「岩手大学における在学期間の特例に関する規則」を参照)

この制度で卒業が認められると、学士の学位が授与され、大学卒業の資格が得られます。

2 1 長期履修学生制度 獣医学部の学生は対象になりません

職業を有している等の事情により修業年限の4年間での卒業が困難な場合は、この制度に基づき申請し、許可された者に限り、一定の期間(最長6年まで)にわたり履修して卒業することができます。授業料は、修業年限の4年間分を許可された長期履修の期間に合わせて支払うことになります。

希望する場合は学生センターA棟 番窓口に申し出てください。

(申請時期: 2月末日又は8月末日まで 対象: 1~3年次まで)

2 2 転学部制度

入学後に他学部に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学部が認められる(許可される)場合があります。

申請の時期、方法については、アイアシスタント等でお知らせします。

2 3 転学科・転課程制度

入学後に他学科又は他課程に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学科又は転課程が認められる(許可される)場合があります。

申請の時期、方法については、アイアシスタント等でお知らせします。

2 4 学部3年次修了者の本学大学院への入学

大学に3年以上在学し所定の単位を優れた成績をもって修得する見込みのある者で、本学の大学院の研究科で受験資格を有すると認められた者は、出願し受験することができます。

これは、研究者として優れた資質を有する者に対して、早期から大学院教育を実施することを目的としているための制度です。

出願に当たっては、指導教員あるいは関係教員と十分相談のうえ決定するのが望ましいです。

(注意事項)

本出願資格により入学する場合は、学部学生の身分を有することはできず、退学して大学院に入学することとなります。したがって、大学学部卒業を要件としている各種の国家試験等の資格試験は、受験できなくなります。

2 5 その他

(1) 大学からの連絡・案内

大学から学生に対する連絡(例えば公示・通知・呼び出し・授業時間割・休講・試験日程あるいは奨学金・授業料免除の申請期日など)は、アイアシスタントや大学構内に設置している掲示板でお知らせします。

そのため、毎日一度はアイアシスタントと掲示板を見るように心がけ、見なかったり、見落としたために、不利益を受けないよう注意してください。掲示板の場所は、『学生生活の手引き』で確認してください。

(2) 気象警報等の発令時における授業等の取扱い

気象警報(暴風警報及び暴風雪警報に限ります。)又は特別警報が発令された場合、本学学生の安全確保のために、授業の休講及び課外活動等が休止となることがあります。詳細については、関係法規等「気象警報等の発令時における授業等の取扱いに関する申合せ」を確認してください。

< 参考 >

* 学生の修得すべき単位数 (詳細は、教養教育 (共通教育)、各専門教育のページを参照) (単位)

学 部	学科・課程	コ ー ス	教養教育 科目	共通教育 科目	専門教育 科目	合 計
人文社会科学部	人間文化課程		28		98	126
	地域政策課程					
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	28		109~ 118	137~ 146
		中学校教育コース			106~ 115	134~ 143
		理数教育コース			109~ 111	137~ 139
		特別支援教育コース			107	135
理工学部	理工学科		28		99	127
農学部	食料農学科		28		98	126
	生命科学科					
	地域環境科学科					
	動物科学・水産科学科					
獣医学部	共同獣医学科			30	159	189

* 学籍番号

学籍番号は在学中のすべての提出書類に記載する8桁の番号であり、次表によって定められています。学籍番号を記入する際には、必ず学生証で確認してください。

* 学部学科等 (3桁)	* 入学年度 (2桁)	* 通番 (3桁)
人文社会科学部 H01 人間文化課程 H02 地域政策課程 教育学部 E01 学校教育教員養成課程小学校教育コース E02 学校教育教員養成課程中学校教育コース E03 学校教育教員養成課程理数教育コース E04 学校教育教員養成課程特別支援教育コース 理工学部 SB1 理工学科 農学部 AB1 食料農学科農学コース AB2 食料農学科食品健康科学コース AB3 生命科学科分子生物機能学コース AB4 生命科学科分子生命医科学コース AB5 地域環境科学科革新農業コース AB6 地域環境科学科森林科学コース AB7 動物科学・水産科学科動物科学コース AB8 動物科学・水産科学科水産システム学コース 獣医学部 VB1 共同獣医学科	入学年度の西暦下2桁となります。 例：2026年入学 = 26 編入学生は、編入した学年の入学年度の西暦下2桁となります。 例：3年次編入生 = 24	個人を特定する番号で3桁となります。 例： 1番 = 001 10番 = 010

(例)

「2026年度入学 食料農学科農学コース99番」の学生の場合は、「AB126099」であり、分解すると、「AB1 = 学部学科等・26 = 入学年度・099 = 通番」となります。

科目を履修する際によく出てくる用語です。覚えておきましょう。

アイアシスタント

インターネットを利用した岩手大学の学修支援システムのひとつです。シラバスの検索・閲覧、履修申告の登録、休講・補講・教室変更の確認などができます。

このほか地震等の災害時に緊急連絡による安否確認が行われます。

インターンシップ

職場の監督下での一定期間の職業経験のことです。学生の専攻分野に関連した業務に関わるものか否か、フルタイムかパートタイムか、有給か無給か、短時間が長期間かなど形態は様々ですが、キャリア意識の涵養、職業的スキル・態度・知識の獲得を目的に実施されています。

CAP制(キャップ制)

履修登録科目数上限制度のことです。授業外学修時間の確保のため、各学生が一学期に履修を申告できる総単位数に上限を設定しています。成績優秀者及び編入学生に対しては、より多くの科目の履修が認められます。(詳しくは -6 ページを参照)

いわて高等教育コンソーシアム

いわて高等教育コンソーシアムは、岩手県内の大学等高等教育機関が連携して、県内の高等教育・学術研究の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とした組織体であり、岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校、及び岩手保健医療大学で構成し、学生は他校の授業を受講し単位を修得したり、図書館を利用することができます。

集中講義

通常の授業とは別に、特定の期間に集中して行う授業です。休日や夏季・冬季休業中に行うこともあります。履修申告の方法は、その都度アイアシスタント等でお知らせします。

シラバス

各授業科目の概要のことです。授業の目的や各回の授業内容、成績評価の基準や方法、教科書・参考書、教員への相談方法等が記載されています。シラバスはアイアシスタントから見るすることができます。

GPA(ジー・ピー・エー: Grade Point Average)

個々の学生の学業成績を数値化したものです。岩手大学では、各授業科目の履修単位数に成績評価によるポイント(秀 = 4、優 = 3、良 = 2、可 = 1、不可 = 0)を掛けた数字の合計を、履修した単位数で割って算出した値をGPAとしています。

【本学のGPA算出方法】

$$GPA = \frac{\text{「秀」単位数} \times 4 + \text{「優」単位数} \times 3 + \text{「良」単位数} \times 2 + \text{「可」単位数} \times 1 + \text{「不可」単位数} \times 0}{\text{「秀」単位数} + \text{「優」単位数} + \text{「良」単位数} + \text{「可」単位数} + \text{「不可」単位数}} \quad (1)$$

(1)は履修単位数×成績評価によるポイントの合計、(2)は履修単位数

上記の計算式の対象となる授業科目は卒業要件単位に算入される授業科目です。ただし、成績評価がないもの(「合」など)、「保留」となっているものは含まれません。

なお、不可だった授業科目を再度履修して単位修得した場合、再履修による結果でGPAを算出します(再履修による単位修得後は、不可だった初回の履修単位数は分母から除かれます)。

JABEE(ジャビー: Japan Accreditation Board for Engineering Education)

大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを、日本技術者教育認定機構が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度のことです。

ポートフォリオ

学生の学修成果を集め、ファイル等にまとめたもののことです。テストやレポートのみならず、学生の書いた図画や、活動中の写真なども含まれます。本学ではアイフォリオと呼ばれるWEB上でのポートフォリオを使用しています。

履修取消制度

履修登録期間を過ぎた後に、学修上の理由で履修登録を取消したい場合、指定された履修取消期間にアイアシスタントより取り消す制度のことです。取消ができない科目もありますので、アイアシスタント等でよく確認してください。

履修取消の手続きをせずに、履修登録した科目を受講しなかった場合は、その科目の評価が「不可」となり、「GPA算定」や「成績優秀者」判定に影響します。

Iⁿ Assistant2.0 & WebClass & Iⁿ Folio (アイアシスタント 2.0&ウェブクラス&アイフォリオ)

1. Iⁿ Assistant2.0 (アイアシスタント 2.0)

Iⁿ Assistant2.0 (以下「アイアシスタント」という。)は、皆さんの学修を支援するためのシステムです。授業に関するお知らせや大学からの重要なお知らせ、シラバスの確認、履修申告等の様々な機能を有しています。また、WebClass や Iⁿ Folio を利用するための入り口となります。

大学生活に必要なシステムですので、毎日(逐次)利用するようにしてください。

<システムのインストール>

スマートフォン等に「アイアシスタント」アプリをインストールしてください。

[iphone 等版 \(App Store\)](#)



[Android 版 \(Google Play\)](#)



アプリを利用できない場合は、Web ブラウザ版 (<https://ia2.iwate-u.ac.jp>) を利用してください。ただし、Web ブラウザ版にはプッシュ通知で各種お知らせを受け取る機能はありません。

<ログイン>

ログイン画面で「ログイン名」、「パスワード」を入力し、ログインボタンをタップ(初回のみ)してください。

ログイン名は、大学のメールアドレスになります。入学時に、メールアドレスとパスワードが配付されます。

これは、大学の端末室(パソコン教室)のパソコンを使う時のユーザ名、パスワードと同じになります。

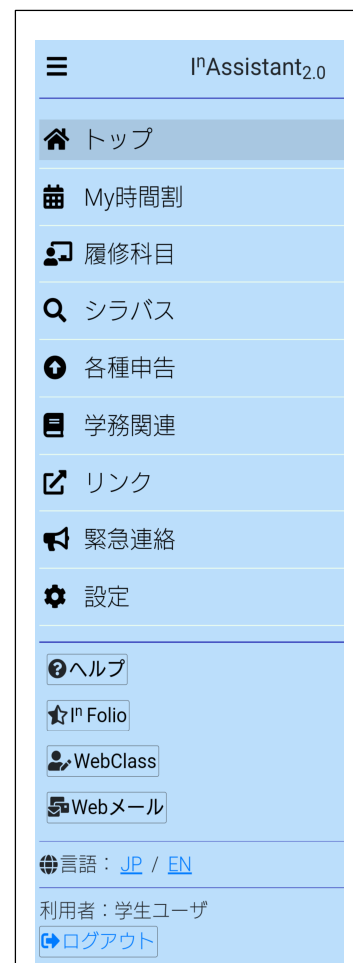
万が一パスワードを忘れてしまった場合は、情報基盤センターに相談してください。

<トップ>

ログインすると、個人専用のトップページが表示されます。

学務関連新着情報には、履修関係(休講、補講、教室変更、その他)、学務部からの各種お知らせ、呼び出しの情報が届きます。また、重要なお知らせや緊急時のお知らせ等もここに届くことになります。

その他の新着情報には、学生生活、学生支援(授業料免除や奨学金等含む)、地域協創教育、キャリア支援、留学に関することや図書館からのお知らせが届きます。



< My 時間割 >

My 時間割には、履修している科目の時間割、開講される講義室等が表示されます。また、授業時間表や1年間の大学のスケジュール等が、学年暦や行事予定表として表示されています。

My 時間割の科目名をタップすると、該当科目の WebClass が表示されます。

< 履修科目 >

履修科目の一覧が表示されます。履修科目のシラバスや LMS ボタンから該当科目の WebClass が表示されます。

< シラバス >

シラバスを検索、閲覧することができます。科目履修に必要な情報が掲載されていますので、履修申告する際は必ず確認するようにしてください。また、当該科目の担当教員に連絡を取りたい場合に必要な連絡先等もシラバスで確認することができます。

< 各種申告 >

各種申告では、履修に必須となる履修申告や、学生本人、保護者の連絡先を登録する住所変更・登録が行えます。また、取得を希望する資格(等)の種類を登録することができます。

< 学務関連 >

履修の手引きや学生生活の手引きをダウンロードすることができます。

< リンク >

関連の機関等のホームページへのリンクになります。

< 緊急連絡 >

災害時等の安否確認等を行うための機能になります。

< 設定 >

各種お知らせのプッシュ通知を受け取る設定や、My 時間割の表示場所を設定することができます。

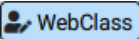
2. WebClass (ウェブクラス)

WebClass (以下「ウェブクラス」という。)は、教材の配付やテスト等、出席確認に利用されます。

その他、各種アンケート等にも利用されます。

< 利用 >

ウェブクラスは、アイアシスタントの My 時間割にある科目名をタップして、利用します。

なお、My 時間割の下の「Webclass のトップページへ」または  をタップするとウェブクラスのトップページにアクセスできます。

時限(校時)	月	火
1	初級フランス語(入門)	
2		経済のしくみ

ウェブクラスでは、授業を「コース」と呼びます。授業でウェブクラスを利用するかは、授業担当の教員によります。

< 教材 >

教材には、教材の一覧が表示され、タイムラインに教材が時系列で通知されます。

< マイレポート >

マイレポートには、提出したレポートのコメントや成績、提出日が表示されます。

< 成績 >

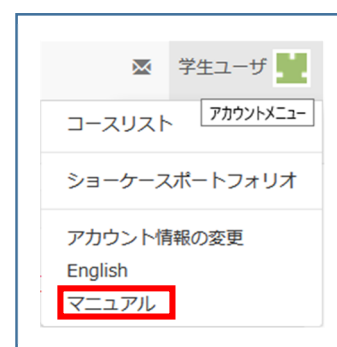
成績では、実施されたテストやレポートの採点結果を確認することができます。

< 出席 >

出席では授業の始めに出席データを送信したり、今までの出席状況を確認することができます。

< マニュアル >

マニュアルは、アカウントメニューからダウンロードすることができます。



3. Iⁿ Folio (アイフォリオ)

Iⁿ Folio (以下「アイフォリオ」という。)は、学位授与の方針(ディプロマポリシー、以下「DP」という。)の達成状況に関する自己評価や取得単位から算出される達成量、さらに学士力(学士課程共通のDP)、学修時間、学修体験に関する自己評価を見える化したシステムです。

< 利用 >

アイフォリオは、アイアシスタントの  をタップして利用します。

< 学生情報 >

学生情報には、所属している学部、学科等のプログラム概要や学位授与方針が表示されます。

< ポリシー >

自己評価：各年度・学期ごとに「学位授与の方針」の達成状況についての自己評価を入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。

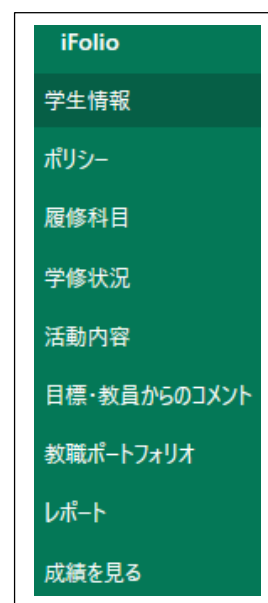
DPグラフ：累積の達成量のグラフが表示されます。

累積達成量：各学期までの取得単位数×DPに対する重みづけから算出された達成量です。

< 履修科目 >

履修した科目について、学修状況を評価入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。



<レポート>

ウェブクラスの学習記録ビューアが表示されます。

<学修状況>

学士力自己評価、学修時間自己評価、学修体験自己評価別の学期ごとの自己評価とそれらのレーダーチャートです。

<活動内容>

委員会活動やサークル・部活、インターンシップ、資格・検定等に関して、自身の活動を記録（入力）しておくことができます。

<目標・教員からのコメント>

学部によっては、学修ポートフォリオの一環として、年度ごとに学生が将来の希望や年間の目標、その成果等を記入し、それに対して教員がコメントを記入する取り組みが行われています。

<教職ポートフォリオ>

教員免許状を取得するのに必要な資質能力の向上のために利用します。

<成績を見る>

自身の修得単位、成績の状況を確認することができます。

また、修得した単位の集計表、GPAの値、履修中を含めた科目の一覧が表示されるほか、卒業に向けての単位の充足率（卒業要件をどのくらい満たしているのかを判定した結果）を見ることができます。なお、この充足率は参考の情報となりますので、履修の手引きを参照のうえ、各自で必ず確認してください（修得した単位すべてが卒業要件の単位となるわけではないので、注意すること）。

なお、学期ごとに新たな成績を見るには、前述の各種自己評価を入力する必要があります。

<マイレージ>

国際教育センターで実施している「IHATOVO グローバルコース」、地域協創教育センターで実施している「イーハトーヴ協創コース」のマイレージポイントの状況を確認することができます。

大学メール

入学時に、大学で利用する学生専用のメールアドレス（～@iwate-u.ac.jp）が付与されます。

これは個人へのお知らせ等に利用されるもので、緊急時等にもこのメールのお知らせが届きます。アイアシスタントだけではなく、大学メールも毎日（随時）確認するようにしてください。

教養教育について

(獣医学部を除く)

教養教育について (獣医学部を除く)

1 教養教育の理念

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け、「基礎的な知識の修得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を涵養する」ことを理念としています。

この理念を実現するために、教養教育は、岩手大学のすべての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。

2 教養教育の教育目的と修得すべき能力

教養教育における人材養成像を以下のとおり明示します。

教養教育の教育目的及び修得すべき能力

<教育目的>

岩手大学は、基礎的な知識を身につけ、多様な領域に対する学問的関心を高め、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とし、すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供する。

<修得すべき能力>

教養教育では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの意欲や関心に基づき主体的に学び続ける能力
- (2) 自ら問題を発見・探究・解決する思考力と判断力
- (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力
- (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力
- (5) 多様な人びとと協働するために必要なさまざまな言語による基本的コミュニケーション能力
- (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力
- (7) 自らの役割を認識し、身につけた教養を責任ある行動に結びつける能力

教養教育科目の構成(科目区分等)

教養教育科目は、前述の教育目的を達成するために、「技法知科目」、「学問知科目」、「探究知科目」及び「実践知科目」によって構成されています。

区分			
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語
			英語以外
			日本語
		健康・スポーツ科目	
		情報科目	
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目	
		理学・工学領域科目	
		農学領域科目	
	探求知科目	環境科目	
	実践知科目	地域関連科目	地域科目
地域課題演習科目			

各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力

A 技法知科目

<教育目的>

「技法科目」は、外国語科目と情報科目の学習を通じて、学問知・探究知・実践科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。

<修得すべき能力>

「技法科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力
- (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力

1. 外国語科目

・英語

<教育目的>

「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的とする。

また、英語を自律的に学習する習慣を身につけさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集・発信する能力を向上させることを目的とする。

さらに、英語による異文化コミュニケーションのあり方について認識を深めさせることも目的とする。

<修得すべき能力>

「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 十分な英語力を身につけていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの学習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力
- (2) ある程度の英語力を既に身につけている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力
- (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力
- (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する

・英語以外の外国語

<教育目的>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

初級外国語（入門・発展）では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
 - ・ドイツ語技能検定試験 4級
 - ・実用フランス語技能検定試験 4級
 - ・ロシア語能力検定試験 4級
 - ・中国語検定試験 4級
 - ・漢語水平考試（HSK） 3級
 - ・韓国語能力試験 TOPIK（1～2級 140点以上）
 - ・ハングル能力検定試験 5級

(2) 外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力

(3) 易しい文章を読んだり書いたりできる能力

(4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識

中級外国語では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力

- ・ドイツ語技能検定試験 3級
- ・実用フランス語技能検定試験 3級
- ・ロシア語能力検定試験 3級
- ・中国語検定試験 3級
- ・漢語水平考試 (HSK) 4級
- ・韓国語能力試験 TOPIK (3~6級 120点以上)
- ・ハングル能力検定試験 4級

- (2) 外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力
- (3) やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力
- (4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識

・日本語

<教育目的>

「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など、大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。

<修得すべき能力>

「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 文法力、読解力、聴解力については日本語能力試験N1レベル以上の能力
- (2) レポート、小論文等の文章作成力、および、討論、口頭発表等の口頭表現力等、日本語教育の参照枠のC1レベル以上の日本語能力

2. 健康・スポーツ科目

<教育目的>

「健康・スポーツ科目」は、スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り、コミュニケーション能力を高めるとともに、スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら、生涯にわたりスポーツを实践する力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「健康・スポーツ科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力
- (2) スポーツ活動を通して他者とコミュニケーションを図る能力
- (3) スポーツを科学的・文化的に理解するとともに生涯にわたってスポーツを实践する能力

3. 情報科目

<教育目的>

「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。

<修得すべき能力>

「情報科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じて使うことができる基礎的な能力
- (2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し、目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力
- (3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力
- (4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し、適切な行動をとることができる能力

B 学問科目

<教育目的>

「学問科目」は、学生が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって、多様な学問領域への関心を高め、自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり、どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「学問科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 知識の修得を通じて、物事を多面的な角度から考察できる能力
- (2) 知識の修得を通じて、多様な価値観を受け入れることができる能力

(3) 自然・人間・社会との関係において、各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力

1. 人文社会科学・教育学領域科目

<教育目的>

「人文社会科学・教育学領域科目」は、人文社会科学及び教育学における各学問分野の視点から、多様な文化の形成や意義、社会の成り立ち、教育や心理に関する諸問題を理解し、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「人文社会科学・教育学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 各種の文化や社会、教育、心理に関する基礎的な知識とそれらを多面的な角度から思考し考察できる能力
- (2) 各種の文化や社会、教育、心理に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

2. 理学・工学領域科目

<教育目的>

「理学・工学領域科目」は、理学及び工学における各学問分野の視点から、自然を理解し役立てる上での基礎的な概念や考え方を学び、人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「理学・工学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力
- (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

3. 農学領域科目

<教育目的>

「農学領域科目」は、農学における各学問分野の視点から、生命や動植物、食料生産や環境に関することを学び、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「農学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 生命や動植物、食料生産や環境に関する基礎的な知識とそれらに関して考察できる能力
- (2) 自然科学や農林水産業に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

C 探究知科目

<教育目的>

「探究知科目」は、多元的・複合的な主題を掘り下げ、課題を見だし、探究することで、幅広く深い教養と総合的な判断力を培うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「探究知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 主体的に問いを立て、何が課題であるかを探究できる思考力
- (2) 事象間の繋がりや影響関係を複眼的に見いだすことができる能力
- (3) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力

1. 環境科目

<教育目的>

「環境科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「環境科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどにに基づき客観的に理解する能力
- (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力
- (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力

2. 地域関連科目

<教育目的>

「地域関連科目」は、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域関連科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力
- (2) 地域社会の現実に即して地域の課題解決に取り組む実践能力

・地域科目

<教育目的>

「地域科目」は、岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び、岩手の歴史・文化・特色を理解し、地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 多角的・複眼的な視点によって、岩手の地域社会を全体的に把握できる能力
- (2) 総合的な判断に基づいて、岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力

D 実践知科目

<教育目的>

「実践知科目」は、技法知・学問知・探究知で培った知識や情報、技能を活用する能力を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を主体的に実践することで、地域の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「実践知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 技法知・学問知・探究知科目で得た知識や情報を活用して課題を発見し解決する能力
- (2) 社会における自らの役割を認識し、責任感をもって主体的に行動する能力
- (3) 他者と協働して多様な意見を調整し、解決策を見出す能力

・地域課題演習科目

<教育目的>

「地域課題演習科目」は、学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて、身につけた知識を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学部を越えて学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域課題演習科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの専門分野と異なる知識を修得し、他者の異なる意見も理解したうえで考察する能力
- (2) 異なる分野の人びとと協働して地域にある現実問題を積極的に解決しようとする意欲
- (3) 多様な人びとと共に課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力
- (4) 学習で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力
- (5) 学習で得た知識を課題の発見と解決に活かす能力

3 履修方法及び開設授業科目

履修については、本冊子及び授業時間割を参考にし、間違いのないよう注意してください。

同一名称の授業科目は重複して履修できません。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できます。

なお、授業科目には、必修科目と選択科目の2種類があり、各学部、学科、課程ごとにそれぞれ範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみ、または後期のみ開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意してください。

A 技法知科目

(1) 「外国語科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 a - 1

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
英語総合 (上級)	1	1	初級ロシア語(入門)	1	1
英語総合 (上級)	1	1	初級ロシア語(発展)	1	1
英語総合 (中級)	1	1	中級ロシア語	1	1
英語総合 (中級)	1	1	初級中国語(入門)	1	1
英語総合 (初級)	1	1	初級中国語(発展)	1	1
英語総合 (初級)	1	1	中級中国語	1	1
英語コミュニケーション (上級)	1	1	初級韓国語(入門)	1	1
英語コミュニケーション (上級)	1	1	初級韓国語(発展)	1	1
英語コミュニケーション (中級)	1	1	中級韓国語	1	1
英語コミュニケーション (中級)	1	1	上級日本語A	1	1
英語コミュニケーション (初級)	1	1	上級日本語B	1	1
英語コミュニケーション (初級)	1	1	上級日本語C	1	1
初級ドイツ語(入門)	1	1	上級日本語D	1	1
初級ドイツ語(発展)	1	1	上級日本語E	1	1
中級ドイツ語	1	1	上級日本語F	1	1
初級フランス語(入門)	1	1	上級日本語G	1	1
初級フランス語(発展)	1	1	上級日本語H	1	1
中級フランス語	1	1			

- 履修年次 -

1年次に履修すること。履修方式は学部ごとに異なるので、注意すること。

また、クラス分けを行っているので、注意すること(掲示により確認すること)。

(注) 1. 外国語は週1時限で1単位。

2. 「英語」と「英語以外の外国語」を合わせて、計8単位履修すること。

3. 英語総合 ・ は「読むことと書くこと」を中心とする授業であり、英語コミュニケーション ・ は「聞くことと話すこと」を中心とする授業である。

4. 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語から1つの言語を履修する。中級外国語は、初級外国語と同一言語を履修する。

5. 英語以外の外国語は、初級(入門)、初級(発展)の順に履修すること。

ただし、集中型(入門と発展を併せて週4回行う。)の授業の場合は、同時に履修すること。

6. 外国人留学生は、外国語科目として日本語を履修することができる。

7. 外国人留学生は、母語(native language)、およびCEFR C1レベル以上の既習得言語を、「外国語科目」として履修できない。

8. 英語以外の外国語で1科目当たり60時間以上を高校等で履修してきた学生は、別に指示するので申し出ること。

9. 「英語」については、上記のほか表 a - 2のとおり開設授業科目がある。

表 a - 2

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
英語発展A (TOEIC 初級)	1	1	2年次以上対象
英語発展B (TOEIC 中級)	1	1	2年次以上対象
英語発展C (実践英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展D (科学英語)	1	1	2年次以上対象

- 履修年次 -

「英語発展」は2年次以上に履修すること。

なお、「英語発展」で修得した単位は選択となる。

- (注) 1. 外国語は週1時限で1単位。
 2. 英語発展A～Dに履修の順番はない。ただし、英語発展B (TOEIC 中級)の単位を修得した場合、英語発展A (TOEIC 初級)を履修することはできない。
 3. 英語発展A (TOEIC 初級)は、TOEICスコア500点を到達目標とした授業である。
 英語発展B (TOEIC 中級)は、TOEICスコア600点を到達目標とした授業である。
 英語発展C (実践英語)は、日常生活で使用する実践的な英語力を養うことを目的とした授業である。
 英語発展D (科学英語)は、「科学」をテーマにした文献の読解力の養成と英語によるプレゼンテーション能力を高めることを目的とした授業である。

(2) 「健康・スポーツ科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 b

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
健康・スポーツA	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツB	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツC (シーズン)	1	集中	集中実技(理論含む)

- 履修年次 -

全学部とも健康・スポーツAは1年次前期に、健康・スポーツBは1年次後期に履修すること。

- (注) 1. 全学部とも健康・スポーツA (1単位)は必ず履修すること。
 2. 健康・スポーツC (シーズン)は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ履修できる。
 3. 健康・スポーツBと健康・スポーツC (シーズン)は人数制限があるので注意すること。

(3) 「情報科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 c (1年次対象)

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
情報基礎A	2	1	機器の操作含む
情報基礎B	2	1	機器の操作含む

- 履修年次 -

全学部とも情報基礎Aは1年次前期に、情報基礎Bは1年次後期に履修すること。

また、端末台数の関係上、学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号によるクラス編成を行っているので、注意すること(時間割及び掲示により確認すること)。

- (注) 1. 全学部とも情報基礎A (2単位)は必ず修得すること。情報基礎B (2単位)は1年次後期に履修することができる。
 2. 高校で情報科目を履修し、所定のレベルを有するものは早期に単位を修得できる場合がある。

B 学問知科目

(1) 「人文社会科学・教育学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数
表 d

授 業 科 目	単位数	週時限数
思想	2	1
芸術学	2	1
文学	2	1
言語学	2	1
歴史学	2	1
法学	2	1
憲法	2	1
政治学	2	1
経済学・経営学	2	1
社会学	2	1
教育学	2	1
心理学	2	1

(2) 「理学・工学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数
表 e

授 業 科 目	単位数	週時限数
物質科学	2	1
自然科学	2	1
材料科学	2	1
電気電子工学	2	1
エネルギー科学	2	1
数理情報科学	2	1
機械科学	2	1
環境・防災学	2	1
メディア情報学	2	1

(3) 「農学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数
表 f

授 業 科 目	単位数	週時限数
農学基礎	2	1
食品健康科学	2	1
分子生物機能科学	2	1
分子生命医科学	2	1
農業環境工学	2	1
森林科学	2	1
動物科学	2	1
水産学基礎	2	1
獣医学A	2	1
獣医学B	2	1
獣医学C	2	1

C 探究知科目

(1) 「環境科目」の開講授業科目・単位数・週時間数
表 g

授 業 科 目	単位数	週時間数
環境A	2	1
環境B	2	1
環境C	2	1
環境D	2	1
環境E	2	1
環境F	2	1

(2) 「地域科目(地域関連科目)」の開講授業科目・単位数・週時間数
表 h

授 業 科 目	単位数	週時間数	授 業 科 目	単位数	週時間数
現代社会をみる視角	2	1	地域協創E	1	1
宮沢賢治の世界	2	1	地域協創F	1	1
危機管理と復興	2	集中	地域協創G	1	1
地場産業・企業論	2	集中	地域協創H	1	1
ボランティアとリーダーシップ	2	集中	地域協創I	1	1
地域協創入門	2	1	キャリアを考えるA	2	1
社会連携学A	2	1	キャリアを考えるB	2	1
社会連携学B	2	1	日本事情A	2	1
地域協創A	1	1	日本事情B	2	1
地域協創B	1	1	多文化コミュニケーションA	2	1
地域協創C	1	1	多文化コミュニケーションB	2	1
地域協創D	1	1			

D 実践知科目

(1) 「地域課題演習科目(地域関連科目)」の開講授業科目及び履修方法等
表 i

授 業 科 目	単位数	週時間数
地域防災課題演習	2	1
地域グローバル課題演習	2	1
地域クリエイト課題演習	2	1
地域課題演習A	2	1
地域課題演習B	2	1
地域課題演習C	2	1
地域課題演習D	2	1
インターカレッジ・フィールド実践演習	2	1
キャリアデザイン実践演習	2	1
海外研修-世界から地域を考える-	2	集中

(注) 地域課題演習科目(2単位)は、人数制限があるので注意すること。

4 「選択」について

外国語科目（「英語発展」のみ）ならびに必修単位数を超えた健康・スポーツ科目、情報科目、人文社会科学・教育学領域科目、理学・工学領域科目、農学領域科目、地域関連科目（地域科目、地域課題演習科目）を「選択」に充てることができます。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換協定に基づき、他大学で修得した科目については、所定単位数までは「選択」のなかに取り入れることができます。

なお、「選択」の範囲及び修得すべき単位数等については、学部、学科、課程により異なるので各学部の説明の項を参照してください。

参考: 履修授業科目要件区分 / 標準履修学年・時期早見表

履修区分		科目名 (印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考			
技法知 科目	英語	英語総合 (初級)	1	選択	1	履修希望調査及び大学入学共通テストとオックスフォード・プレースメント・テストによりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)			
		英語総合 (中級)	1	選択	1				
		英語総合 (上級)	1	選択	1				
		英語総合 (初級)	1	選択	1				
		英語総合 (中級)	1	選択	1				
		英語総合 (上級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (初級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (中級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (上級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (初級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (中級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (上級)	1	選択	1				
		英語発展A (TOEIC 初級)	1	選択	2 前				
		英語発展B (TOEIC 中級)	1	選択	2 後				
		英語発展C (実践英語)	1	選択	2 前				
		英語発展D (科学英語)	1	選択	2 後				
		外国語 科目	英語以外	初級ドイツ語(入門)	1		選択	1	履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
				初級ドイツ語(発展)	1		選択	1	
				中級ドイツ語	1		選択	1 後	
	初級フランス語(入門)			1	選択	1			
	初級フランス語(発展)			1	選択	1			
	中級フランス語			1	選択	1 後			
	初級ロシア語(入門)			1	選択	1			
	初級ロシア語(発展)			1	選択	1			
	中級ロシア語			1	選択	1 後			
	初級中国語(入門)			1	選択	1			
	初級中国語(発展)			1	選択	1			
	中級中国語		1	選択	1 後				
	初級韓国語(入門)		1	選択	1				
	初級韓国語(発展)		1	選択	1				
	中級韓国語		1	選択	1 後				
	上級日本語A		1	選択	1 前				
	上級日本語B		1	選択	1 前				
	上級日本語C		1	選択	1 前				
	上級日本語D		1	選択	1 前				
	上級日本語E		1	選択	1 後				
	上級日本語F		1	選択	1 後				
	上級日本語G		1	選択	1 後				
	上級日本語H		1	選択	1 後				
	健康・スポーツ 科目	健康・スポーツA	1	必修	1 前				
		健康・スポーツB	1	必修/選択	1 後				
		健康・スポーツC(シーズン)	1	選択	1 後				
情報科目	情報基礎A	2	必修	1 前	学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号でのクラス編成を行う。 (時間割及び掲示により確認すること)				
	情報基礎B	2	選択	1 後					
学問知 科目	人文社会科学・ 教育学領域科目	思想	2	選択	1・2	教育学部生は、時間割を確認の上、「憲法」を1年前期に履修すること。			
		芸術学	2	選択	1・2				
		文学	2	選択	1・2				
		言語学	2	選択	1・2				
		歴史学	2	選択	1・2				
		法学	2	選択	1・2				
		憲法	2	必修/選択	1・2				
		政治学	2	選択	1・2				
		経済学・経営学	2	選択	1・2				
		社会学	2	選択	1・2				
		教育学	2	選択	1・2				
心理学	2	選択	1・2						

履修区分	科目名 (印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考		
学問知 科目	理学・工学領域科目	物質化学	2	選択	1・2		
		自然科学	2	選択	1・2		
		材料科学	2	選択	1・2		
		電気電子工学	2	選択	1・2		
		エネルギー科学	2	選択	1・2		
		数理情報科学	2	選択	1・2		
		機械科学	2	選択	1・2		
		環境・防災学	2	選択	1・2		
		メディア情報学	2	選択	1・2		
		農学領域科目	農学基礎	2	選択	1・2	
	食品健康科学		2	選択	1・2		
	分子生物機能科学		2	選択	1・2		
	分子生命医科学		2	選択	1・2		
	農業環境工学		2	選択	1・2		
	森林科学		2	選択	1・2		
	動物科学		2	選択	1・2		
	水産学基礎		2	選択	1・2		
	獣医学A		2	選択	1・2		
	獣医学B		2	選択	1・2		
	獣医学C	2	選択	1・2			
探究知 科目	環境科目	環境A	2	選択	1・2 前		
		環境B	2	選択	1・2 前		
		環境C	2	選択	1・2 前		
		環境D	2	選択	1・2 後		
		環境E	2	選択	1・2 後		
		環境F	2	選択	1・2 後		
	地域 科目	地域 科目	現代社会をみる視角	2	選択	1・2	
			巨沢賢治の世界	2	選択	1・2	
			危機管理と復興	2	選択	1・2	
			地域産業・企業論	2	選択	1・2	
			ボランティアとリーダーシップ	2	選択	1・2	
			地域協創入門	2	選択	1・2	
			社会連携学A	2	選択	1・2	
			社会連携学B	2	選択	1・2	
			地域協創A	1	選択	1・2	
			地域協創B	1	選択	1・2	
			地域協創C	1	選択	1・2	
			地域協創D	1	選択	1・2	
			地域協創E	1	選択	1・2	
			地域協創F	1	選択	1・2	
			地域協創G	1	選択	1・2	
			地域協創H	1	選択	1・2	
			地域協創I	1	選択	1・2	
			キャリアを考えるA	2	選択	1・2	
			キャリアを考えるB	2	選択	1・2	
			日本事情A	2	選択	1・2	
			日本事情B	2	選択	1・2	
			多文化コミュニケーションA	2	選択	1・2	
多文化コミュニケーションB	2	選択	1・2				
実践知 科目	地域課題 演習科目	地域防災課題演習	2	選択	2		
		地域グローバル課題演習	2	選択	2		
		地域クリエイティブ課題演習	2	選択	2		
		地域課題演習A	2	選択	2		
		地域課題演習B	2	選択	2		
		地域課題演習C	2	選択	2		
		地域課題演習D	2	選択	2		
		インターカレッジ・フィールド実践演習	2	選択	2		
		キャリアデザイン実践演習	2	選択	2		
		海外研修-世界から地域を考える-	2	選択	2		

注1:各学部の履修単位数及び履修方法を確認すること。

注2:履修にあたっては前期のみまたは後期のみでの開設授業科目や年度により開設しない科目があるので、時間割を確認すること。

なお、時間割には、学年・学部・学科等の単位で履修できる枠(時間割枠)があるので、注意すること。

注3:科目名の印は集中講義形式での開講を示しているが、これ以外でも集中講義形式で開講する場合がある。

5 修得すべき単位数と履修の注意点～農学部～

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下ようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表 d 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				農 学 部			
				必修 単位	選択		
					(選択可能)	単位	
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「 選 択 」 参 照	
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目	1	(2)			
	情報科目	2	(2)				
	技法知科目修得単位数計				11		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)		
		理学・工学領域科目		2	(2)		
		農学領域科目		2	(2)		
	学問知科目修得単位数計				6		
	探究知科目	環境科目		4	(2)		
	実践知科目	地域関連科目	地域科目				
			地域課題演習科目				
探究知・実践知科目取得単位数合計				4			
教養教育科目修得単位数計				28			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

技法知科目 (11 単位)

必修単位 (11 単位)

外国語科目 (英語・英語以外の外国語) (8 単位)

英語、英語以外の外国語を次の a～b のどちらか 1 つの履修形態を選択し修得すること。

a. 英語 8 単位

英語総合 ・ を各 2 単位、英語コミュニケーション ・ を各 2 単位、合計 8 単位

b. 英語 4 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 8 単位

英語総合 ・ を各 1 単位、英語コミュニケーション ・ を各 1 単位、計 4 単位及び英語以外の外国語から 1 外国語を選択し、初級 (入門) を 2 単位、初級 (発展) を 2 単位、計 4 単位、合計 8 単位

健康・スポーツ科目 (1 単位)

健康・スポーツ A (1 単位) を修得すること。

情報科目 (2 単位)

情報基礎 A (2 単位) を修得すること。

学問知科目、探究知科目及び実践知科目（10単位）

必修単位（10単位）

「人文社会科学・教育学領域科目」から2単位を修得すること。

「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。

「農学領域科目」から2単位を修得すること。

「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

選択（7単位）

次の区分から7単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）

「健康・スポーツ科目」（2単位まで）

健康・スポーツB、健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。

「情報科目」（2単位まで）

「人文社会科学・教育学領域科目」（2単位まで）

「理学・工学領域科目」（2単位まで）

「農学領域科目」（2単位まで）

「地域科目」、「地域課題演習科目」（2単位まで）

- 履修上の注意事項 -

- 1 「外国語科目」、「情報科目」、「健康・スポーツ科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で憲法2単位、健康・スポーツ科目2単位修得する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみ~~の~~開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり~~に~~履修すること（掲示により確認すること）。決定語学は変更できない。

専門教育について

農学部

農 学 部

< 農学部の理念と目標 >

* 理念

現在の農学分野においては、世界的規模で進む環境の変化や農業生産を取り巻く様々な情勢の変化を反映した教育・研究の必要性が増している。さらに、年々複雑化、多様化する農学分野における諸課題の解決にあたっては、個々の専門分野における教育・研究の深化のみならず、農学分野を広く横断する俯瞰的な視点に立った教育・研究が強く求められており、その実践を農学部の理念とする。

* 教育目標

農学分野において基盤を成す「食料」「生命」「環境」の3つの領域を基軸として、各領域に関する教育・研究、さらには3つの領域を俯瞰しそれらを複合するための「農学の総合知」教育を実践する。

* 研究目標

農学部は、独創的な国際レベルの学術研究、そして地域社会との連携による新分野の研究を追求する。具体的には以下の視点からの研究の推進と質的向上を目指す。

- 1) 持続可能な地域農林水産業と豊かな社会の形成に対する貢献
- 2) 地球規模の問題を視野に入れた課題の解決
- 3) 生物系産業の創出・発展への積極的な取り組み

* 社会貢献目標

農学部は、地域社会に存在する教育、研究ニーズを積極的に掘り起こし、学部の教育・研究課題として受け止める一方、その成果をわかりやすく解説しながら社会に還元していくことを目標とする。この目標実現のためには、日常的に地域社会と農学部の交流を十全にし、その関係構築の土壌形成に努めることとする。

さらに、地域社会から国際社会へ教育研究の場を広げ、知的資産を還元し社会に貢献する。

< 教育目的 >

農学分野において基盤を成す「食料」「生命」「環境」の3つの領域に関する教育に加えこれら3つの領域を俯瞰しそれらを複合するための「農学の総合知」に関する教育の実践により、自身の専門分野に関して農学全体からの視点を持ち、身につけた知識・技術を他の分野に広く展開できる能力を持った次世代の農学人材の育成を教育目的とする。

食料農学科

< 教育目的 >

食料農学科は、人々の生存の基盤である食料の生産とそれを基にした食品に関わる知識と技術の教育と研究を行い、地域・国際社会での食料生産、食品供給、健康分野における課題解決や新しい価値の創出を通じて、健康で持続的な食料と食品の生産・供給を担う人材の養成を目的とする。

< 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） >

【農学コース】

農学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1．農業および食品産業に関わる諸問題を理解するために必要な自然科学、情報技術、コミュニケーション技術に関する基礎知識を有している。
- 2．食料の持続的な安定生産および安定供給、生命機能の解明と食料生産への応用に関する基礎的知識および科学的方法を理解している。

（思考・判断）

- 3．農学に関する知識と理解を基礎に、関連する諸問題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめ、行動することができる。

（関心・意欲）

- 4．豊かな課題探求能力と課題解決能力をもって農業および食品産業が抱える諸問題を解決しようとする意欲を持っている。

（態度）

- 5．農学に関連した産業の創出・発展のニーズに、協調性と倫理性をもって、自立的・継続的に行動することができる。

（技能・表現）

- 6．自らの倫理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

【食品健康科学コース】

食品健康科学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1．食と健康に関わる諸問題を理解するために必要な自然科学、社会科学、情報技術およびコミュニケーションに関する基礎知識を身につけている。
- 2．農産物や食品素材の物理的・化学的特性やその加工に関する知識、栄養代謝や天然資源の健康機能素材に関する理解が身につけている。

（思考・判断）

- 3．農産物や食品素材に関する知識と理解を基礎に、食糧、健康に関する諸課題・未知事項について、多面的に思考し自らの考えをまとめる能力を身につけている。

（関心・意欲）

- 4．食糧、健康に関する課題や未知事項に関心を持ち、その解決・解明に取り組む意欲を持っている。

（態度）

- 5．農産物、食品素材、天然資源の有効利用やその応用を通じて、食品産業や医薬品産業を始めとする食品・健康関連産業の創出・発展に寄与し、広い視野を持って地域や社会に貢献する考え方や行動がとれる。

（技能・表現）

- 6．自らの知識と論理的な思考に基づいた判断結果を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得している。

<教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）>

食料農学科は、人類の生存基盤である食料の生産とそれを基にした食品に関わる知識と技術の教育と研究を行い、地域・国際社会での食料生産、食品供給、健康分野における課題解決や新しい価値の創出を通じて、健康で持続的な食料と食品の生産・供給を担う人材を育成する。

【農学コース】

農学コースでは、農学に関する専門知識と技術を身につけ、社会のリーダーとして活躍できる専門職業人、またグローバルな視点をもった研究者・技術者として国内外で活躍できる人材を育成するた

め、以下のカリキュラムを構成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 広範な知識と高い倫理性を身につけるために、教養教育科目群、専門基礎科目群、学部共通科目群に属する科目の履修を必修としている。
2. 農業および食品産業に関する高い専門知識と技術を身につけるために、専門コア科目において作物学、園芸学、植物育種学、植物病理学、土壌学、植物栄養生理学、農業経済学に関する科目群を配置している。

(思考・判断)

3. 農学に関する知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができるように、学科概論、専門コア科目に演習科目および実験科目を配置している。

(関心・意欲)

4. 農業および食品産業に関する具体的な課題への関心と、課題を解決する能力・技術・意欲を身につけるための科目として、専門コア科目に農場実習、学部共通科目に「農学の総合知」修得のための概論と演習、インターンシップおよび卒業研究を配置している。

(態度)

5. 農業および食品産業の創出・発展のニーズに、協調性と倫理性をもって、自律的・継続的に行動できる能力を修得するために、インターンシップ、農学のための倫理学、食料農学科概論および卒業研究を配置している。
6. 論理的な思考の過程と判断の結果をわかりやすく説明するための高いプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得するために、演習科目、卒業研究および科学英語を配置している。

【食品健康科学コース】

食品健康科学コースでは、国内外の食品産業の発展や超高齢社会において食を通じた人々の健康に寄与できる人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 食と健康に関わる諸問題を理解するために必要な自然科学、社会科学、情報技術およびコミュニケーションに関する基礎知識を身につけるため、教養教育科目と専門基礎科目の履修を必修としている。
2. 農産物や食品素材の物理的・化学的特性やその加工に関する知識、栄養代謝や天然資源の健康機能素材に関する理解を修得するため、専門コア科目に食品化学、栄養化学、食品工学、天然物化学、食品微生物学に関する科目群を配置している。

(思考・判断)

3. 農産物や食品素材に関する知識と理解を基礎に、食糧、健康に関する諸課題・未知事項について、多面的に思考し自らの考えをまとめる能力を育成するため、専門コア科目に演習科目および実験実習科目を配置している。

(関心・意欲)

4. 食糧、健康に関する課題や未知事項に関心を持ち、その解決・解明に意欲的に取り組むために、学部共通科目にインターンシップや卒業研究を配置している。

(態度)

5. 農産物、食品素材、天然資源の有効利用やその応用を通じて、食品産業や医薬品産業を始めとする食品・健康関連産業の創出・発展に寄与し、広い視野を持って地域や社会に貢献する考え方や行動をとることが可能になるよう、インターンシップ、農学の総合知の修得に関する科目および学科概論を配置している。

(技能・表現)

6. 自らの知識と論理的な思考に基づいた判断結果を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得するため、学部共通科目に科学英語や卒業研究、専門コア科目に演習科目や実験実習を配置している。

生命科学科

< 教育目的 >

生命科学科は、生命の営みの基本であるタンパク質や核酸、糖鎖や脂質などが関与する分子レベルの反応に焦点を当て、生命現象を分子レベルで理解することにより、地球環境問題の解決、種の多様性の保存、健康寿命の延長など、次世代の諸問題の解決を先導できる人材の養成を目的とする。

< 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） >

【分子生物機能学コース】

分子生物機能学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1．生物機能を理解するための基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる教養的素養を有している。
- 2．生化学、分子生物学、細胞生物学、微生物学、植物生理学、応用昆虫学の専門的な基礎知識を身につけ、様々な生き物の生物機能について十分に理解している。

（思考・判断）

- 3．様々な生物における分子機能に関する知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

（関心・意欲）

- 4．様々な生物における分子機能の未解決課題に関心を持ち、産業への応用をはじめとして、環境や食料、健康などの分野での問題解決に意欲的に取り組むことができる。

（態度）

- 5．様々な生物における分子機能の有効利用やその応用を通じて、分析系や化学系、食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し、高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動がとれる。

（技能・表現）

- 6．自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得している。

【分子生命医科学コース】

分子生命医科学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1．生命活動のプログラムを分子レベルで解き明かす分子生命科学やその知見を医療に役立てる生命医科学を理解するための基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる教養的素養を有している。
- 2．生化学、分子生物学、バイオテクノロジー、細胞生物学、生理学、神経科学、免疫学、組織形態学、再生医療工学、動物行動学などの専門的な基礎知識を身につけ、様々な生命活動のプログラムについて十分に理解している。

（思考・判断）

- 3．生命活動のプログラムやその医療への応用に関する分子レベルでの知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

（関心・意欲）

- 4．様々な生命活動のプログラムに関する分子メカニズムに関心を持ち、生活の質(Quality of life; QOL)の向上に役立てる試みをはじめとして、健康衛生や疾病の予防などの生命科学に関連する問題解決に意欲的に取り組むことができる。

(態度)

5. 様々な生命活動のプログラムの分子レベルでの解明やその医療への応用を通して、医療系や製薬系、化学系、食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し、高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動がとれる。

(技能・表現)

6. 自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得している。

<教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)>

生命科学科は、生物の分子レベルでの知識と理解に立脚し、様々な問題を俯瞰的に捉え、地球環境問題の解決、種の多様性の次世代への保存、健康寿命の延長など、次世代の諸問題の解決するための教育研究を行う。

【分子生物機能学コース】

分子生物機能学コースでは、微生物、植物、昆虫、動物など様々な生き物の生物機能に関わる基礎的および専門的知識を習得し、実験、研究科目を学ぶ中で、自ら発想し行動する力、独創性ならびに柔軟な対応力を身につけ、グローバル化する社会でその力を発揮できる、自律性や判断力を持つ人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 生物機能を理解するための基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる素養を身につけるために、教養教育科目、専門基礎科目、学部共通科目に属する科目の履修を選択必修としている。

2. 様々な生物の機能を分子レベルで解明し、産業への応用をはじめとして、環境や食料、健康などの分野で問題解決へと導く専門的な基礎知識を身につけるために、専門コア科目において生化学、分子生物学、細胞生物学、微生物学、植物生理学、応用昆虫学に関する科目群を配置している。

(思考・判断)

3. 様々な生物における分子機能に関する知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができるように演習科目および卒業研究を配置している。

(関心・意欲)

4. 様々な生物における分子機能の未解決課題へ関心を持ち、また、専門知識を産業へと応用することをはじめ、環境や食料、健康などの分野での課題解決への意欲を身につけるための科目としてインターンシップおよび卒業研究を配置している。

(態度)

5. 様々な生物における分子機能の有効利用やその応用を通じて、分析系や化学系、食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し、高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動をとることが可能になるよう学部共通科目のインターンシップや専門重点科目の農学のための倫理を配置している。

(技能・表現)

6. 自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得するために、演習科目、卒業研究、科学文献読解法を配置している。

【分子生命医科学コース】

分子生命医科学コースでは、様々な生命活動の分子レベルでの解明・理解に基づく医療への応用に関する基礎的および専門的知識を習得し、実験、研究科目を学ぶ中で、自ら発想し行動する力、独創性ならびに柔軟な対応力を身につけ、生命科学分野の諸問題の解決に力を発揮できる、自律性や判断力を持つ人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 様々な生命活動のプログラムを分子レベルで理解し、その知見を医療に応用する基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる素養を身につけるために、教養教育科目、専門基礎科目、学部共通科目に属する科目の履修を選択必修としている。
2. 生命活動のプログラムを分子レベルで理解し、生命科学分野の諸問題の解決へと導く専門的な基礎知識を身につけるために、専門コア科目において生化学、分子生物学、バイオテクノロジー、細胞生物学、生理学、神経科学、免疫学、組織形態学、再生医療工学、動物行動学などに関する科目群を配置している。

(思考・判断)

3. 生命活動のプログラムや医療に関する知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができるように実験科目、情報科目および卒業研究を配置している。

(関心・意欲)

4. 生命活動のプログラムの分子レベルでの理解やその医療への応用に関する諸問題に関心を持ち、専門知識を生活の質(Quality of life; QOL)の向上へと応用することをはじめ、健康衛生や疾病の予防などの分野での課題解決への意欲を身につけるための科目としてインターンシップおよび卒業研究を配置している。

(態度)

5. 生命活動のプログラムの分子レベルでの理解やその医療への応用を通して、医療系や製薬系、化学系、食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し、高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動をとることが可能になるよう学部共通科目インターンシップや専門重点科目に農学のための倫理を配置している。

(技能・表現)

6. 自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得するために、実験科目、情報科目、卒業研究を配置している。

地域環境科学科

<教育目的>

地域環境科学科では、持続可能な食と農の科学、地域生態系の保全、森林資源の管理と持続的な利用、持続的農業生産と環境管理、農業インフラの整備、スマート農業システムの導入、グリーントランスフォーメーションについて、地球環境問題とSDGsへの対応を念頭に置いた教育を行い、未来の農林業を担う地域先導型人材の養成を目的とする。

<学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

【革新農業コース】

革新農業コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 自然科学や情報技術および地域文化に関する基礎知識を深く理解している。
2. 革新的な農業技術の基礎および応用分野の知識を身につけている。

(思考・判断)

3. 地域の課題について考察し、課題解決のための適切な判断ができる能力を身につけている。
4. 革新的な農業技術について総合的に考察し、適切な判断ができる能力を身につけている。

(関心・意欲)

5. 持続可能な食料・農業・農村システムの実現に関心を持ち、問題解決に貢献しつつ地域農業を先導する意欲と能力を持っている。

(態度)

6. 自らの社会的責任と倫理遵守の重さを自覚し、多様な主体と協働しながら継続的に学ぶ態度を身につけている。

(技能・表現)

7. 調査・研究や各種統計によるデータを分析・利用する技能を身につけている。

8. 聞き手に明快に説明できるプレゼンテーション技能とコミュニケーション能力を身につけ、文章や口頭発表によって表現できる。

【森林科学コース】

森林科学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 数学、自然科学、情報処理に関する基礎的知識を持っている。

2. 森林科学の学問内容および方法を説明できる。

(思考・判断)

3. 森林の多面的機能について、総合的に考えることができる。

4. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進めることができる。

(関心・意欲)

5. 地球的視点から、各地の文化や異なる価値観に関心を示している。

6. 自主的、継続的に学修できる。

(態度)

7. 技術者が社会に対して負っている責任を感じる。

8. チームワークを意識して行動できる。

(技能・表現)

9. 日本語で論理的に記述・発表・討議できる。

10. 森林科学の知識を利用し、社会の要求を解決するために提案できる。

<教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)>

地域環境科学科では、持続可能な食と農の科学、地域生態系の保全、森林資源の管理と持続的な利用、持続的農業生産と環境管理、農業インフラの整備、スマート農業システムの導入、グリーントランスフォーメーションについて、地球環境問題とSDGs達成への対応を念頭に置いた教育を行い、未来の農林業を担う地域先導型人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

【革新農業コース】

革新農業コースでは、農業と食を切り拓く革新的な農業技術を取り扱うことのできる人材の輩出を目的とした教育を行う。具体的には、スマート農業技術を核とした、農村環境や農業のインフラ整備の技術の開発、地域のネットワークづくり、次世代型食料システムの創出を担うことのできる人材を育成する。さらには、グローバルな視点と高度な専門知識を備えて地域農業を先導するとともに、持続可能な食料・農業・農村システムの実現に向けた取り組みを通じてSDGs達成に貢献できる人材育成のための教育・研究を展開することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

(知識・理解)

1. 自然科学や情報技術および農業と食を切り拓く革新的な農業技術に関する基礎知識を深く理解できるよう、教養教育科目と専門基礎科目の幅広い履修を課している。

2. スマート農業技術を核とした、農村環境整備や農業生産のインフラ整備の技術開発、地域のネットワークづくり、次世代型食料供給システムの構築の知識を身につけられるよう、コース科目に、力学系科目群、地理情報系科目群、水土系科目群、農業・食料生産科学系科目群、生態・社会科学系科目群、演習科目群を配置している。

(思考・判断)

- 3 地域の問題点と課題を把握し、専門知識を総合してさまざまな課題について考察できるとともに、課題解決のための判断力が養われるよう、コース科目に演習科目群、学部共通科目にインターンシップと卒業研究を配置している。
- 4 革新的な農業技術について総合的に考察し、その現場適用における適切な判断ができる能力を養えるよう、コース科目にスマート農業概論、フィールドロボティクス、革新農業実践論などの実用的かつ実践的な授業科目群を配置し、2、3年次での履修を促している。

(関心・意欲)

- 5 持続可能な食料・農業・農村システムの実現に向けた取り組みや革新的な農業技術に関心を持ち、これらを取り巻く課題を解決しつつ地域農業を先導する意欲と能力を身につけられるよう、講義に関連する演習、実験科目を設けている。

(態度)

- 6 将来の技術者あるいは研究者としての社会的責任と倫理遵守の重さを自覚し、多様な主体と協働して学びを継続するよう、コース科目の演習、実習科目を配置するとともに、学部共通科目にインターンシップを配置している。

(技能・表現)

- 7 調査・研究や各種統計によるデータを分析・利用する技能の獲得を目的として、情報処理演習や地理情報処理学を設けている。
- 8 聞き手に明快に説明できるプレゼンテーション技能とコミュニケーション能力および文章や口頭発表による表現力を身につけられるよう、農学の総合知演習と学部共通科目の卒業研究を必修としている。

【森林科学コース】

森林科学コースでは、東北地方の恵まれた自然環境を背景として、森林の持つ多様な環境保全機能や樹木資源の生産と利用について総合的に学習し、自然との共生関係を築きながら発展できる地域社会の実現に貢献する人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

- 1 数学、自然科学、情報処理に関する基礎的知識を獲得するため、1、2年次に教養教育科目の技法知科目(情報科目)、学問知科目(理学・工学領域)及び学部専門基礎科目の履修を促している。
- 2 森林科学の学問内容と方法を説明できるようにするため、専門コア科目に森林学・森林工学、自然環境学、林産学に関する基礎的な授業・実習科目群を配置し、2、3年次の履修を促している。

(思考・判断)

- 3 森林の多面的機能について、総合的に考えることができるようにするため、専門コア科目に野生動物管理学、森林政策学、砂防学などの応用的な授業科目群を配置し、2、3年次の履修を促している。
- 4 与えられた制約の下で計画的に仕事を進められるようにするため、専門コア科目に森林造成学実習、森林利用学実習、砂防学実習などの野外実習科目群を配置し、3年次の履修を促している。

(関心・意欲)

- 5 地球的視点から各地の文化や異なる価値観に関心を示すようになるため、1、2年次に教養教育科目の学問知科目と技法知科目(外国語)の履修を促している。
- 6 自主的・継続的に学修できるようにするため、専門コア科目全般で自己学習時間の確保を促すとともに、宿題を特に重視する科目として、専門コア科目の森林計測学、専門基礎科目の生物統計学を配置し、1年次の履修を促している。

(態度)

- 7 技術者倫理を感じられるようにするため、学部共通科目のインターンシップの履修を促すとともに、専門コア科目に技術者倫理入門、森林科学応用演習Ⅰ、専門サブ科目に海外・日本の林業を配置し、2、3年次の履修を促している。
- 8 チームワークを意識して行動できるようにするため、専門コア科目に森林科学基礎演習、森林測量学実習Ⅰを配置し、1年次から2年次の履修を促している。

(技能・表現)

9. 日本語で論理的に記述・発表・討議できるようにするため、1年次に専門コア科目の森林科学の歴史と現在、学科共通科目の地域環境科学概論の履修を促している。
10. 森林科学の知識を利用し、社会の要求を解決するために提案できるようにするため、専門コア科目に森林科学応用演習Ⅰ、森林科学応用演習Ⅱ、学部共通科目に卒業研究を配置し、3年次後期から4年次の履修を促している。

森林科学コースは日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を指向するコースである。地球的視点と技術者としての社会に対する責任感を持ち、森林科学の主要分野である「森林学、森林工学、自然環境・社会学、林産学」について基礎知識と応用能力を兼ね備えた人材を「自立した技術者像」として定め、本コースの学習・教育到達目標を以下のとおりとする。

(A) フォレストエンジニアとして必要な基礎的な素養・能力を修得する。

国際人として自国の文化、他国の文化や異なる価値観などを理解し、基礎的な英会話によるコミュニケーションができる知識・能力を身につける。

技術者として社会性をもち、技術が人間、社会、自然へ及ぼす影響や効果について理解、自覚し、責任ある態度をとる能力を身につける。

インターンシップ、演習林宿泊実習、現地見学などの実体験を通じて、チームで仕事をするための能力と職業人としての自覚と社会性を身につける。

3年次後期から1年半にわたる卒業研究などを通じて、実験・調査計画の立案・遂行能力とデータ解析能力の向上を図るとともに、成果の取りまとめ、発表などにより、デザイン能力、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

(B) 数学、自然科学、情報処理などの森林科学の基礎知識を修得する。

(C) 森林科学の専門領域である「森林学、森林工学、自然環境・社会学、林産学」の専門基礎を系統的に学び、地域、地球規模での森林管理に必要な基盤となる知識を修得する。

(D) 冷温帯林における豊富な自然環境での実習、現地見学などにより森林造成、森林計画、森林防災を学び、自然への深い理解に基づいた森林管理技術を修得する。

(E) 実習、実験、現地見学などにより木材生産や木材利用を学び、人工林資源の利活用により冷温帯林における持続的森林経営や地域林産業に貢献できる、森林利用技術を修得する。

(F) 森林科学の知識を応用し、森林管理の諸問題に適切に対応できる、幅広い専門知識とそれらを問題解決に利用できる実践的能力を備えた専門性の高い自立した職業人、フォレストエンジニアとして活躍できるための総合的な知識・能力を修得する。

動物科学・水産科学科

<教育目的>

動物科学・水産科学科は、農学領域において畜産物および水産物の生産と供給を担う二つの産業基盤を背景とした教育・研究を行うとともに、野生動物、展示動物、実験動物および海洋生物の生理・生態とそれらの有益な利用方法に関する知識および技術の教育・研究を行うことにより、動物・水産資源の安定的な生産と供給、その高度利用に貢献する人材の養成を目的とする。

<学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

【動物科学コース】

動物科学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 農学全体を俯瞰する幅広い知識及びその基礎となる教養を持っている。

2. 動物生産及び動物科学分野に関する知識を持っている。

(思考・判断)

3. 動物関連産業に関する課題の解決を適切に行うため、動物生産及び動物科学分野に関する知識により考察することができる。

(関心・意欲)

4. 動物関連産業に関する課題に関心を持ち、課題の解決に意欲的に取り組むことができる。

(態度)

5. 動物関連産業に関する課題の解決を客観的に行うため、情報収集及び議論を積極的に行うことができる。

(技能・表現)

6. 動物関連産業に関する課題を解決して論文又は口頭で発表を行うか、修得した動物生産及び動物科学分野の技術を実践することができる。

【水産システム学コース】

水産システム学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 水産システム学を実践するための数学、自然科学、社会科学、コミュニケーション(日本語・英語)に関する基礎的知識を身につけている。

2. 水産業の復興と持続的発展に貢献するために、水産科学分野に加えて、水産業に関わる人文・社会科学分野までの幅広い関連分野を網羅した水産システム学を体系的に身につけ、水産業の現状とその課題を俯瞰的視点から理解できる。

(思考・判断)

3. 水産業が抱える諸課題について多角的に分析、俯瞰的に思考し、最善の解決策を判断できる。その中で個人のそれぞれの志向に応じた専門性追求に向けて関連分野を含めた幅広い知識を修得している。

(関心・意欲)

4. 日本と世界の水産業の持続的発展の諸課題に関心を持ち、地域における実体験を通じた学びを通して問題解決に意欲的に取り組むことができる。

(態度)

5. 水産業に関わる専門家としての高い倫理観を持ち、真摯に責任をもって持続的水産業構築の諸課題について積極的に携わる態度を持つ。

(技能・表現)

6. 水産システムを構成する漁業、増養殖業、加工・流通産業を理解し、分析するための基礎的技術を身につけ、地域貢献活動などによる実体験を通して社会実践に向けた意欲が養われている。

7. 調査・実験や各種統計によるデータを的確かつ適正に分析・利用する技術、結果に基づく論理的な思考能力、および得られた結果を的確に伝えることができるコミュニケーション力(プレゼンテーション、日本語、英語)を身につけている。

<教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)>

動物科学・水産科学科は、「食料」「生命」「環境」のいずれの領域にも深く関連する教育・研究分野として、畜産物および水産物の生産と供給を担う二つの産業基盤を背景とした専門分野に関するカリキュラム、さらには、野生動物や海洋生物の生理・生態とそれらの利用に関するカリキュラムを編成している。

【動物科学コース】

動物科学コースでは、産業動物(家畜)、実験動物、野生動物、展示動物などの様々な動物種を対

象に、人と動物が共生する心豊かな地域社会の創造を目指し、効率的かつ機能的な動物関連産業の発展と動物科学に関する高度な科学技術の開発に貢献できる人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 学士としての幅広い教養と豊かな人間性を養うために、教養教育科目、専門基礎科目の履修を必修としている。
2. 動物生産及び動物科学分野に関する知識を身につけるために、産業動物(家畜)、実験動物、野生動物、展示動物など、幅広い動物種を対象として、動物の生理、形態、組織、遺伝育種、発生、生殖、飼料、草地、栄養、飼養、管理、行動及び動物資源の利用に関する専門重点科目を配置している。

(思考・判断)

3. 動物関連産業に関する課題を理解し、講義で得た専門知識を駆使して課題解決を適切に行う技能を養成するために、各専門コア科目の実験科目および牧場実習などを配置している。

(関心・意欲)

4. 我が国有数の畜産物生産地域である東北地方という背景を活かし、動物関連産業発展に資する動物科学を学ぶために、牧場実習を含む専門コア科目を配置し、その一部に現場見学を取り入れている。また、実地研修の内容を取り入れた科目として、インターンシップを配置している。

(態度)

5. 情報収集及び客観的な議論を積極的に行うことができる技能を養成するために、各専門コア科目の実験および牧場実習、さらに卒業研究へつなげるよう科目を配置している。

(技能・表現)

6. 修得した動物生産及び動物科学分野の技術を総合的に実践する能力を養成するために卒業研究およびインターンシップを配置している。

【水産システム学コース】

水産システム学コースでは、広範な水圏生物の生態解明と水産資源の利活用と保全の方法に関わる分野を学び、グローバルな食料需給とローカルな資源循環の視点から地域産業と地方創生を担う人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 水産システム学を実践するための数学、自然科学、社会科学、コミュニケーション(日本語・英語)に関する基礎的知識を獲得するため、1,2年次の教養教育科目に関連科目履修を促している。
2. 水産業の復興と持続的発展に貢献する人材を育成するために、水産科学分野に加えて、水産業に関わる社会科学分野までの幅広い関連分野を網羅した水産システム学を体系的に提供する。
3. その中で学生個人それぞれの志向に応じた専門性追求の意欲を醸成し、関連領域への知識拡大のため、他学科・コース提供科目履修の機会を提供する。

(思考・判断)

4. 水産業が抱える諸課題について多角的に分析、俯瞰的に思考し、地域における実体験を通じた学びを通して最善の解決策を判断できるよう基礎論と実践的な実習・演習を配置している。

(関心・意欲)

5. 日本と世界の水産業の持続的発展の諸課題に関心を持ち、問題解決に意欲的に取り組めるように、水産業の発展に関連した科目を配置している。

(態度)

6. 水産業に関わる専門家としての高い倫理観を持ち、真摯に責任をもって持続的水産業構築の諸課題について積極的に携われるように、水産業復興に資する科目を配置している。

(技能・表現)

7. 水産システムを構成する漁業、増養殖業、加工・流通産業を理解し、分析するための基礎的技術を身につけるために、海洋実習や地域水産業実習などの実習科目を配置している。また、学生個人

- による積極的な地域貢献活動を通じた学びを推奨するため、地域貢献演習を配置している。
- 8．フィールド調査や実験，各種統計によるデータを的確かつ適正に分析・利用する技術，結果に基づく論理的な思考能力，および得られた結果を的確に伝えることができるプレゼンテーション力と語学力を身につける科目を配置している。

1. 岩手大学農学部教育課程規則

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則第36条第5項及び岩手大学農学部規則第13条の規定に基づき、岩手大学農学部(以下「本学部」という。)における専門教育(以下「専門教育」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(科目及び単位の修得)

第2条 専門教育における授業科目(以下「科目」という。)及び単位数は、別表第1に定めるところによる。

2 専門教育においては、別表第2に掲げる単位数以上を修得しなければならない。

3 科目の必修と選択の別、履修年次、時間数、履修方法等は、別に定める。

(授業時間割等の公示)

第3条 開講する科目の担当教員、授業時間等は、各学期の開始までに公示する。

2 学期の途中から開講する科目については、その都度公示する。

(履修科目の届出)

第4条 学生は、履修しようとする科目を指定の期間内に学部長に届け出なければならない。

2 前項の届け出をしない者は、単位の認定を受けることができない。

3 前項の届け出の後、履修取り消しを認める指定期間内に限り、届け出た科目を取り消すことができる。

(他学科及び他学部科目の履修)

第5条 学生は、所定の手続きを経て他学科又は他学部の科目を履修することができる。

2 他学部の学生が、本学部の科目の履修を願い出たときは、前項に準ずる。

(他大学等での履修)

第6条 学生は、他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとするときは、所定の手続きを経て許可を得なければならない。

2 前項及び前条第1項の規定により修得した単位は、10単位の範囲内で別表第2の選択の単位として認めることができる。

(試験)

第7条 試験を行う場合は、各学期末に行う。ただし、科目によってはその他適当な時期に行うことができる。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、専門教育に関し必要な事項は、教授会において別に定める。

(規則の改正)

第9条 この規則の改正は、教授会の議を経なければならない。

附 則(省略)

別表第 1 (第3条第1項関係)
農学部専門教育科目表 (省略)

別表第 2 (第3条第2項関係)
学生が修得すべき単位数 (省略)

2. 学生が取得すべき単位数（教養教育及び専門教育）

学科		食料農学科		生命科学科		地域環境科学科		動物科学・水産科学科	
		農学コース	食品健康科学コース	分子生物機能学コース	分子生命医科学コース	革新農業コース	森林科学コース	動物科学コース	水産システム学コース
教養教育科目	技法知科目	11	11	11	11	11	11	11	11
	学問知科目	6	6	6	6	6	6	6	6
	探求知科目・実践知科目	4	4	4	4	4	4	4	4
	選択科目	7	7	7	7	7	7	7	7
	計	28	28	28	28	28	28	28	28
専門教育科目	必修科目	58	66	63	74	67	64	65	50
	選択科目	40	32	35	24	31	34	33	48
	計	98	98	98	98	98	98	98	98
合計		126	126	126	126	126	126	126	126

3. 農学部専門教育科目履修表

食料農学科 農学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○											
	線形代数学入門		2		○										
	微分積分学入門		2		○										
	物理学入門		2	○										物必	
	化学入門		2	○										化必 1(注1)	
	化学		2	○										1(注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2(注1)	
	生物学		2	○										2(注1)	
	地学入門		2		○										地必
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実(注2)
基礎生物学実験		1		○										生実(注2)	
		2	7											(注3)	
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語	2				○									
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○									
	統計的機械学習実践	2							○						
	卒業研究	8							○	○	○				
学科共通科目	食料農学科概論	2			○									農必	
	生命科学科概論		2				○								
	地域環境科学概論		2				○								
	動物科学・水産科学科概論		2				○								
専門コア科目	農学総論	1		○											
	作物栽培学	2			○									農	
	食用作物学	2					○							農	
	園芸学	2					○							農	
	園芸学	2					○							農	
	植物病理学	2					○							生	
	植物病理学	2						○						生	
	基礎遺伝学	2		○										生	
	植物育種学	2					○							農	
	食料経済学	2					○							農	
	基礎分析化学	2					○							化	
	土壌資源利用論	2					○							農	
	応用昆虫学	2						○						生	
	植物生理生化学	2						○						農	
	植物栄養学・肥料学	2							○					農	
	食料・農業政策演習	1								○					
	農学実験	2						○						化実	
	農学実験	1							○					生実	
	農学実験	1							○					農	
	農学実験	1							○					農	
	農学演習	1								○					
農場実習	1						○						農		
農学の総合知演習	1								○				農		
専門サブ科目	食用作物学		2						○					農	
	園芸学		2						○						
	植物育種学		2						○					生	
	農業経営学		2					○						農	
	植物ウイルス学		2						○					生	
	土壌環境微生物学・生化学		2							○				農	
	フィールド管理学		2					○						農	
	農場実習		1						○					農	
農場特別実習		1													

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
	食品化学		2			○								化
	食品機能学		2						○					農
	天然物化学		2				○							化
	ケミカルバイオロジー		2					○						生
	食品機能加工学		2			○								
	栄養化学		2				○							化
	食品微生物学		2					○						
	栽培施設学		2			○								農
	農作業システム学		2					○						農
	スマート農業概論		2						○					農
	ポストハーベスト工学		2				○							農
	農業循環工学		2				○							農
	生鮮食品保存科学		2					○						生
	応用昆虫学		2					○						生
	植物生理学		2			○								
	植物生理学		2				○							生
	共生生物学		2			○								
	生化学		2		○									化
	生化学		2			○								化
	遺伝子工学		2				○							生
	必要修得単位数	58	40											
	合計必要修得単位数	98												

専門基礎科目の履修について

(注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

(注2) 基礎化学実験、基礎生物学実験の2科目から必ず1科目以上を修得しなければなりません。

(注3) 専門基礎科目の選択単位については(注2)の実験を含め7単位以上修得しなければなりません。

その他の注意事項

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は10単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

印は集中講義での実施を示します。 印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必・物, 化学:化必・化, 生物学:生必・生, 地学:地必・地, 「化学実験, 生物学実験」:化実・生実)

農業:農必・農

物必・化必・生必・地必:理科の免許を取得するための必修科目です。

農必:農業の免許を取得するための必修科目です。

編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

食料農学科 農学コース カリキュラムマップ

: 教養科目
 : 専門科目 (必修)
 : 専門科目 (選択)

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目							
	学問知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目	外国語科目 (英語発展)					
	探究知科目	人文社会科学・教育学領域科目 理学・工学領域科目/農学領域科目						
	実践知科目	環境科目/地域関連科目 (地域科目)						
専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験						
	化学入門	基礎化学実験						
	物理学入門	地学入門						
	基礎数学入門	線形代数学入門						
	生物学	微分積分学入門						
	化学	生物統計学						
共通学部門	農学の総合知概論	科学英語						
	農学の総合知実習	データ分析演習 海外特別実習			インターンシップ	統計的機械学習実践		卒業研究
共通学部門		食料農学科概論						
			生命科学概論 地域環境科学概論 動物科学・水産科学概論					
専門コア科目	農学総論	作物栽培学	食料経済学	食用作物学	植物病理学	植物病理学	食料・農業政策演習	農学演習
	基礎遺伝学		土壌資源利用論	園芸学	植物栄養学・肥科学	植物栄養学・肥科学	農学の総合演習	
			農場実習	応用昆虫学	農学実験	農学実験		
			基礎分析化学	植物生理生化学	農学実験	農学実験		
				植物病理学	園芸学			
				植物育種学	園芸学			
専門サブ科目		生化学	栽培施設学	農業経営学	食用作物学	食用作物学	土壌環境微生物学・生化学	
			共生生物学	農場実習	農作業システム学	農作業システム学	食品機能学	
			フィールド管理学	天然物化学	園芸学	園芸学	スマート農業概論	
			食品化学	ポストハーベスト工学	植物育種学	植物育種学		
			植物生理学	農業循環工学	植物ウイルス学	植物ウイルス学		
			生化学	植物生理学	農場特別実習	農場特別実習		
			食品機能加工学	遺伝子工学	ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー		
				栄養化学	生鮮食品保存科学	生鮮食品保存科学		
					食品微生物学	食品微生物学		
					応用昆虫学	応用昆虫学		

食料農学科 食品健康科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○										
	線形代数学入門		2		○									
	微分積分学入門		2		○									
	物理学入門		2	○									物必	
	化学入門		2	○									化必 1 (注1)	
	化学		2	○									1 (注1)	
	生物学入門		2	○									生必 2 (注1)	
	生物学		2	○									2 (注1)	
	地学入門		2		○									地必
	生物統計学		2		○									
	基礎化学実験		1		○									化実 (注2)
基礎生物学実験		1		○									生実 (注2)	
		2	7										(注3)	
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○										
	農学の総合知実習	1		○										
	インターンシップ		1											
	科学英語	2				○								
	海外特別実習		1											
	データ分析演習	1				○								
	統計的機械学習実践	2								○				
卒業研究	8								○	○	○			
学科共通科目	食料農学科概論	2			○								農	
	生命科学科概論		2				○							
	地域環境科学概論		2				○							
	動物科学・水産科学科概論		2				○							
専門コア科目	食品健康科学総論	1		○										
	食品化学	2				○							化, 食必	
	食品機能加工学	2				○							食必	
	基礎分析化学	2				○							化, 食必	
	動物生理学	2				○							食必	
	水産食品化学	2				○							食必	
	天然物化学	2					○						化, 食必	
	栄養化学	2					○						化, 食必	
	食品生化学	2					○						生, 食必	
	熱工学	2					○						食必	
	ケミカルバイオロジー	2							○				生, 食必	
	食品微生物学	2							○				食必	
	計測解析科学	2							○				食必	
	農産食品プロセス工学	2							○				農, 食必	
	生鮮食品保存科学	2							○				生, 食必	
	食肉科学	2							○				農, 食必	
	食品衛生学	2								○			農, 食必	
	食品機能加工学	2								○			食必	
	食品機能学	2								○			農, 食必	
	牛乳科学・鶏卵科学	1								○			食必	
	食品化学実験	1							○				食必	
	食品機能加工学実験	1							○				食必	
	栄養化学実験	1								○			食必	
	化学生物学実験	1								○			食必	
	食品生化学実験	1								○			食必	
	食品微生物学実験	1								○			食必	
	農学の総合知演習	1									○			農
食品健康科学演習	1										○		農	
専門サブ科目	基礎遺伝学		2	○									生	
	食用作物学		2				○						農	
	食用作物学		2					○					農	
	園芸学		2				○						農	
	植物生理生化学		2				○						農, 食	
	植物栄養学・肥料学		2					○					農, 食	
	土壌環境微生物学・生化学		2						○				農, 食	
	生化学		2		○								化	

生化学		2			○							化
分子生物学		2				○						
分子生物学		2						○				
細胞生物学		2		○								
細胞生物学		2			○							
生命情報学		2			○							
遺伝子工学		2					○					生
病態生化学		2					○					
再生医療工学		2						○				
微生物学概論		2					○					
微生物生理学		2						○				
産業微生物学		2						○				
応用昆虫学		2					○					生
ポストハーベスト工学		2					○					農, 食
水産食品加工学		2						○				食
水産微生物学		2					○					食
必要修得単位数	66	32										
合計必要修得単位数		98										

専門基礎科目の履修について

- (注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
(注2) 基礎化学実験、基礎生物学実験の2科目から必ず1科目以上を修得しなければなりません。
(注3) 専門基礎科目の選択単位については(注2)の実験を含め7単位以上修得しなければなりません。

その他の注意事項

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は10単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

印は集中講義での実施を示します。印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

食必・食は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得のため必要な科目です。食必は必修、食は選択で必修・選択をあわせて40単位以上修得しなければなりません。

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必一・物, 化学:化必一・化, 生物学:生必一・生, 地学:地必一・地, 「物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験」:物実・化実・生実・地実)

農業:農必一・農

物必一・化必一・生必一・地必一:理科の免許を取得するための必修科目です。

農必一:農業の免許を取得するための必修科目です。

(「必一」が付された科目(物必一・化必一・農必一)は、一般的包括的な内容を含む科目です。詳しくは教育職員免許状・各種資格の取得方法のページを参照してください。)

編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

食料農学科 食品健康科学コース カリキュラムマップ

教育科目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目		外国語科目					
学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		教育学領域科目/農学領域科目					
探究知科目	環境科目/地域関連科目(地域科目)							
実践知科目	地域関連科目(地域課題演習科目)							
専門教育科目	生物学入門	基礎生物学実験						
	化学入門	基礎化学実験						
	物理学入門	地学入門						
	基礎数学入門	線形代数学入門						
	生物学	微分積分学入門						
	化学	生物統計学						
	農学の総合知概論		科学英語					
	農学の総合知実習		データ分析演習					
			海外特別実習					
					インターンシップ			統計的機械学習実践
共通科目								
共通科目								
共通科目								
共通科目								
共通科目								
共通科目								
共通科目								
共通科目								
専門コア科目	食品健康科学総論		食品化学	食品生化学	食品微生物学	食品衛生学	食品健康科学演習	
			食品機能加工学	天然物化学	ケミカルバイオロジー	食品機能加工学		
			基礎分析化学	栄養化学	計測解析科学	食品機能学		
			動物生理学	熱工学	農産食品プロセス工学	牛乳科学・鶏卵科学		
			水産食品化学	食品化学実験	生鮮食品保存科学	農学の総合知演習		
				食品機能加工学実験	食肉科学			
					栄養化学実験			
					化学生化学実験			
					食品生化学実験			
					食品微生物学実験			
					園芸学	土壌環境微生物学・生化学		
	基礎遺伝学	生化学	生化学	植物生理生化学	食用作物学			
		細胞生物学	細胞生物学	食作物学	植物栄養学・肥料学			
			生命情報学	分子生物学	分子生物学			
				分子生物学	再生医療工学			
				遺伝子工学	微生物生理学			
				病態生化学	産業微生物学			
				微生物学概論	水産食品加工学			
				応用昆虫学				
				ポストハーベスト工学				
				水産微生物学				
専門サブ科目								

生命科学科 分子生物機能学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○											
	線形代数学入門		2		○										
	微分積分学入門		2		○										
	物理学入門		2	○										物必	
	化学入門		2	○										化必, 危 1 (注1)	
	化学		2	○										危 1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実, 危 (注3)
	基礎生物学実験		1		○										生実 (注3)
			2	7											(注2)
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語	2				○									
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○									
	統計的機械学習実践	2								○					
	卒業研究	8								○	○	○			
学科共通科目	生命科学科概論	2			○									生	
	食料農学科概論		2				○								
	地域環境科学概論		2				○								
	動物科学・水産科学科概論		2				○								
専門コア科目	生化学	2			○									化, 危必	
	生化学	2				○								化, 危必	
	分子生物学	2					○							生, 危必	
	分子生物学	2						○						生, 危必	
	細胞生物学	2			○									生	
	細胞生物学	2				○								生	
	生命情報学	2				○									
	微生物学概論	2					○							生, 危必	
	微生物生理学	2						○						生	
	植物生理学	2					○							生	
	植物生理学	2						○						生	
	応用昆虫学	2						○						生	
	応用昆虫学	2							○					生	
	生物機能応答学	2							○						
	共生生物学	2						○						生	
	科学文献読解法	2							○						
	分子生物機能学基礎	1		○											
	分子生物機能学演習	1								○					
	分子生物機能学演習	1									○				
	分子生物機能学演習	1										○			
	分子生物機能学実験	1					○							生実	
	分子生物機能学実験	1						○						生実	
	分子生物機能学実験	1							○						
	分子生物機能学実験	1								○					
	分子生物機能学実験	1									○				
	分子生物機能学実験	1										○			
農学の総合知演習	1										○				
専門サブ科目	遺伝子工学		2					○						生	
	植物共生微生物学		2					○						生	
	産業微生物学		2						○					生	
	応用昆虫学		2							○				生	
	植物生理学		2							○				生	
	神経科学		2				○							生	
	生理学		2					○						生	
	組織形態学		2					○						生	
	病態生化学		2					○						危	
	神経科学		2					○							

生命科学科 分子生命医科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○											
	線形代数学入門		2		○										
	微分積分学入門		2		○										
	物理学入門		2	○										物必	
	化学入門		2	○										化必, 危 1 (注1)	
	化学		2	○										危 1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実, 危
	基礎生物学実験		1		○										生実
			2	7											(注2)
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語	2				○									
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○									
	統計的機械学習実践	2								○					
	卒業研究	8								○	○	○			
学科共通科目	生命科学科概論	2			○									生	
	食料農学科概論		2				○								
	地域環境科学概論		2				○								
	動物科学・水産科学科概論		2				○								
専門コア科目	分子生命医科学概論	1		○											
	細胞生物学	2			○									生	
	生化学	2			○									化, 危必	
	生命情報学	2				○									
	生化学	2				○								化, 危必	
	神経科学	2				○								生	
	微生物学概論	2					○							生, 危必	
	植物生理学	2				○								生	
	細胞生物学	2				○								生	
	分子生物学	2					○							生, 危必	
	生理学	2					○							生	
	組織形態学	2					○							生	
	病態生化学	2					○							危必	
	神経科学	2					○								
	免疫学	2					○								
	分子生物学	2							○					生, 危必	
	バイオテクノロジー	2							○					危必	
	分子動物行動学	2							○						
	再生医療工学	2							○						
	応用昆虫学	2						○						生	
	生物機能応答学	2							○						
	分子生命医科学情報	2								○					
	分子生命医科学情報	2									○				
	分子生命医科学情報	2										○			
	分子生命医科学実験	1							○						
	分子生命医科学実験	1							○						
	分子生命医科学実験	1							○						
	分子生命医科学実験	1							○						
	分子生命医科学実験	1							○						
	分子生命医科学実験	1							○						
農学の総合知演習	1								○						
専門サブ科目	遺伝子工学		2				○							生	
	植物生理学		2				○							生	
	微生物生理学		2					○						生	
	共生生物学		2			○								生	
	植物共生微生物学		2				○							生	
	応用昆虫学		2						○					生	

応用昆虫学		2					○			生
植物生理学		2					○			生
産業微生物学		2					○			生
食用作物学		2				○				
基礎遺伝学		2	○							生
園芸学		2				○				
植物病理学		2				○				生
植物育種学		2				○				
植物生理生化学		2				○				危
基礎分析化学		2			○					危
天然物化学		2				○				危
食品化学		2			○					危
栄養化学		2				○				危
ケミカルバイオロジー		2					○			
食品微生物学		2					○			
動物生理学		2			○					
発生生物学		2			○					生
動物遺伝育種学		2			○					
動物生殖学		2				○				
水族生理学		2			○					
水産生物学		2			○					
水産資源生態学		2				○				
水族遺伝学		2			○					
水圏生物多様性論		2				○				
水産食品化学		2			○					危
必要修得単位数	74	24								
合計必要修得単位数		98								

専門基礎科目の履修について

- (注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
- (注2) 専門基礎科目の選択単位数は7単位数以上修得しなければなりません。

注意事項

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位数は10単位数を上限として卒業に必要な単位数として認めます。

印は集中講義での実施を示します。印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

危必・危は、危険物取扱者(甲種)の受験資格を得るために必要な科目です。危必は必修、危は選択で必修・選択を併せて15単位数以上修得しなければなりません。

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必・物,化学:化必・化,生物学:生必・生,地学:地必・地,「化学実験,生物学実験」:化実・生実)

物必・化必・生必・地必:理科の免許を取得するための必修科目です。

編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

生命科学科 分子生命医科学コース カリキュラムマップ

教育科目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目	外国語科目/情報科目	外国語科目(英語発展)					
学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目	理学・工学領域科目/農学領域科目						
探究知科目	環境科目/地域関連科目(地域科目)	環境科目/地域関連科目(地域科目)						
実践知科目		地域関連科目(地域課題演習科目)						
専門教育科目	生物学入門	基礎生物学実験						
	化学入門	基礎化学実験						
	物理学入門	地学入門						
	基礎数学入門	線形代数学入門						
	生物学	微分積分学入門						
	化学	生物統計学						
	農学の総合知概論	科学英語						
	農学の総合知実習	データ分析演習						
		海外特別実習						
		生命科学科概論						
専門教育科目	分子生命医科学概論	細胞生物学	生命情報学	微生物学概論	微生物学	分子生物学	分子生命医科学情報	分子生命医科学情報
		生化学	生化学	分子生物学	生理学	ハイオテクノロジー	分子生命医科学実験	分子生命医科学実験
			神経科学	動物生理学	組織形態学	分子動物行動学	分子生命医科学実験	分子生命医科学実験
			植物生理学	細胞生物学	病態生化学	再生医療工学	分子生命医科学実験	分子生命医科学実験
					神経科学	生物機能応答学	農学の総合知演習	
					免疫学	分子生命医科学実験		
					応用昆虫学	分子生命医科学実験		
					水産資源生態学	分子生命医科学実験		
					水圏生物多様性論	応用昆虫学		
					遺伝子工学	微生物生理学		
専門サブ科目	基礎遺伝学	食品化学	水産食品化学	植物生理学	ケミカルバイオロジー	食品微生物学		
		発生生物学	水産生理学	植物共生微生物学	食用作物学	植物生理学		
		水族生物学	基礎分析化学	動物生理学	園芸学			
			動物遺伝育種学	植物病理学	植物育種学			
			水産生物学	植物生理学	植物生理生化学			
			水族遺伝学	天然物化学	栄養化学			
				動物生殖学	動物生殖学			

地域環境科学科 革新農業コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○										測必	
	線形代数学入門		2		○									測	
	微分積分学入門		2		○									測	
	物理学入門		2	○										物必, 測	
	化学入門		2	○										化必 1 (注1)	
	化学		2	○										1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必, 測
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実
	基礎生物学実験		1		○										生実
		2	5											(注2)	
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語		2			○									
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○								測必	
	統計的機械学習実践	2								○				測必	
	卒業研究	8								○	○	○			
学科共通科目	地域環境科学概論	2			○									測必	
	食料農学科概論		2				○								
	生命科学概論		2				○								
	動物科学・水産科学概論		2				○								
専門コア科目	革新農業入門	2		○											
	応用数学	2			○									測必	
	応用力学	2			○									農, 測必	
	情報処理演習	1			○									測必	
	構造力学	2				○								農, 測必	
	土質力学	2					○							農, 測必	
	水文・水資源学	2					○							農, 測必	
	測量学	2					○							農必, 測必	
	測量学基礎実習	1					○							農必, 測必	
	栽培施設学	2					○							農必	
	農作業システム学	2							○					農	
	フィールドロボティクス	2					○							農	
	農業循環工学	2						○						農	
	熱工学	2						○						物, 測必	
	農産食品プロセス工学	2							○					農	
	生鮮食品保存科学	2							○					生	
	地理情報処理学	2							○					農, 測必	
	スマート農業概論	2								○				農必	
	水理学	2					○							農, 測必	
	農業水理学	2						○						農, 測必	
	土壌物理学	2						○						物, 測必	
	設計施工保全学	2						○						農	
	農地工学	2							○					農必, 測必	
	地域デザイン論	2					○							農, 測必	
	農村計画学	2						○						農, 測必	
	農学の総合知演習	1								○					
	専門サブ科目	構造力学演習		1					○						測
		土質力学演習		1						○					測
農業気象・環境学			2					○						農, 測	
ものづくり実習			1						○					物	
ポストハーベスト工学			2					○						農必	
地理情報処理演習			1							○				農, 測	
革新農業実験			1							○				農	
革新農業実験			1							○				物実, 測	
革新農業実験			1							○				農	
緑地環境学			2						○						
地域景観保全論			2							○					

コミュニティデザイン論	2					○				
農業農村工学演習	1				○					
革新農業実践論	2					○				
作物栽培学	2		○							
基礎遺伝学	2	○								
食用作物学	2					○				
園芸学	2					○				
園芸学	2					○				
園芸学	2						○			
植物育種学	2					○				
植物病理学	2					○				生
植物栄養学・肥料学	2						○			
植物生理生化学	2					○				
食料経済学	2				○					
農業経営学	2					○				
土壌資源利用論	2				○					
土壌環境微生物学・生化学	2							○		
基礎分析化学	2				○					化
食品化学	2				○					
食品衛生学	2						○			
食品生化学	2							○		
地域生態系保全論	2					○				生
木材と住宅	2					○				
野生動物管理学	2					○				生
砂防学	2						○			農,測
NPO・環境ガバナンス論	2						○			
必要修得単位数	67	31								
合計必要修得単位数		98								

専門基礎科目の履修について

(注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

(注2) 専門基礎科目の選択単位は5単位以上修得しなければなりません。

その他の注意事項

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は10単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

印は集中講義での実施を示します。 印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必・物,化学:化必・化,生物学:生必・生,地学:地必・地,「化学実験,生物学実験」:化実・生実)

農業:農必・農

物必・化必・生必・地必:理科の免許を取得するための必修科目です。

農必:農業の免許を取得するための必修科目です。

編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

測量士補資格申請に関係する科目については備考欄へ下記のとおり記載しています。

測必・・・測量士補資格申請のための必修科目です

測・・・測量士補資格申請のための選択科目です

測量士補資格申請のためには、「測必」の科目と「測」の科目を合わせて30単位以上修得する必要があります。

地域環境科学科 革新農業コース カリキュラムマップ

教育科目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
技法知科目								
学問知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目	外国語科目(英語発展)						
探究知科目	人文社会科学・教育学領域科目 理学・工学領域科目/農学領域科目							
実践知科目	環境科目/地域関連科目(地域科目)	地域関連科目(地域課題学習科目)						
専門教育科目	専門基礎科目	基礎生物学実験 基礎化学実験 地学入門 線形代数学入門 微分積分学入門 生物学 化学						
	共通学教科目	農学の総合と概論 農学の総合と実習	科学英語 海外特別実習 データ分析演習					
	共通学教科目	地域環境科学概論	食料農学教科概論 生命科学教科概論 動物科学・水産科学教科概論					
	専門コア科目	革新農業入門 応用数学 応用力学 情報処理演習	構造力学 水文・水資源学 測量学 測量学基礎実習 栽培施設学 フィールドロボティクス 水理学 地域デザイン論	土質力学 農業循環工学 熱工学 農業水利学 土壌物理学 設計施工保全学 農村計画学	農作業システム学 農産食品プロセス工学 生鮮食品保存科学 地理情報処理学 農地工学	スマート農業概論 農学の総合知演習		
	専門サブ科目	基礎遺伝学	農学農村工学演習 食料経済学 土壌資源利用論 基礎分析化学 食品化学	農業気象・環境学 ポストハート工学 構造力学演習 緑地環境学 食用作物学 園芸学 園芸学 植物育種学 植物病理学 植物生理生化学 農業経営学 地域生態系保全論 木材と住宅 野生動物管理学	土質力学演習 革新農業実験 革新農業実験 地域景観保全論 コミュニケーションデザイン論 革新農業実践論 園芸学 食品衛生学 砂防学 NPO・環境ガバナンス論 ものづくり実習 革新農業実験 植物栄養学・肥料学	地理情報処理演習 土壌環境微生物学・生化学 食品生化学		

■：教養科目 □：専門科目(必修) □：専門科目(選択)

地域環境科学科 森林科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○										測必	
	線形代数学入門		2		○									測	
	微分積分学入門		2		○									測	
	物理学入門		2	○										物必, 測	
	化学入門		2	○										化必 1 (注1)	
	化学		2	○										1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必, 測
	生物統計学	2			○										測必
	基礎化学実験		1		○										化実 (注2)
	基礎生物学実験		1		○										生実 (注2)
		4	3											(注3)	
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ	1													
	科学英語		2						○						
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○								測必	
	統計的機械学習実践	2								○				測必	
	卒業研究	8								○	○	○			
学科共通科目	地域環境科学概論	2			○									測必	
	食料農学科概論		2					○							
	生命科学概論		2					○							
	動物科学・水産科学概論		2					○							
専門コア科目	森林科学の歴史と現在	1		○											
	森林計測学	2		○										造, 測必	
	森林科学基礎演習	1					○							農	
	木材と住宅	2					○								
	林業・木材産業論	2					○							農	
	森林測量学	2					○							農, 測必	
	森林測量学実習	2					○							農, 測必	
	樹木学	2					○							生, 樹, 造	
	樹木学実習	1					○							生実, 樹, 造	
	森林科学実習	1			○										
	技術者倫理入門	2						○							
	林産化学	2						○							
	森林測量学	2						○						農, 測必	
	森林測量学実習	2						○						農, 測必	
	森林利用学	2						○						農, 造, 測必	
	野生動物管理学	2						○						生, 樹, 造	
	森林利用学実習	2							○					農, 造, 測必	
	森林計測学実習	1								○				測必	
	砂防学	2								○				農, 造, 測必	
	森林政策学	2								○				農, 造	
	森林造成学	2								○				農, 造	
	森林造成学実習	2								○				農, 樹, 造	
	砂防学実習	1									○			造, 測必	
	農学の総合知演習	1									○				
	森林科学応用演習	1									○				
	森林科学応用演習	1										○			
	専門サブ科目	暖帯林概論		1					○						鹿児島大学で開講
		森林・雪水水文学		2					○						地, 造, 測
山村社会経済論			2					○							
地域生態系保全論			2					○						生, 樹	
森林保全生態学			2					○						生, 樹	
森林バイオマスの成分利用			2							○				農	
森林化学演習			1							○				化実	
海外・日本の林業			2							○					
自然環境保全論			2							○				樹	
NPO・環境ガバナンス論			2							○					
野生動物管理学実習			1							○				生実, 樹, 造	

木質マテリアル		2						○				
木質マテリアル演習		1						○				
環境と樹木の生理		2							○			生, 樹, 造
森林保護学		2							○			樹, 造
森林計画学		2							○			農, 測
森林情報学		2							○			測
公開森林実習		1				○	○	○	○	○	○	
植物病理学		2						○				生, 樹
植物病理学		2						○				樹
天然物化学		2						○				
基礎分析化学		2							○			化
生化学		2		○				○				化
分子生物学		2						○				
微生物学概論		2								○		生
植物生理学		2							○			樹
植物生理学		2								○		
応用昆虫学		2								○		生, 樹, 造
応用数学		2		○								測
応用力学		2		○								農, 測
構造力学		2				○						農, 測
水理学		2				○						農, 測
設計施工保全学		2						○				農
緑地環境学		2						○				
地域景観保全論		2							○			農, 造, 測
必要修得単位数	64	34										
合計必要修得単位数		98										

専門基礎科目の履修について

- (注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
(注2) 基礎化学実験、基礎生物学実験の2科目から必ず1科目以上を修得しなければなりません。
(注3) 専門基礎科目の選択単位については(注2)の実験を含め3単位以上修得しなければなりません。

その他の注意事項

当コースは日本技術者認定機構(JABEE)で認定された技術者教育プログラムです。JABEEの学習・教育到達目標については、学科紹介の「森林科学コース」のページ(-5~6)を参照してください。

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は10単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

印は集中講義での実施を示します。印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

備考欄の、樹は樹木医補申請に必要な科目です。

備考欄の、造は1級・2級造園施工管理技士の受験資格申請に関係する科目です。

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必一・物,化学:化必一・化,生物学:生必一・生,地学:地必一・地,「物理学実験,化学実験,生物学実験,地学実験」:物実・化実・生実・地実)

農業:農必一・農

物必一・化必一・生必一・地必一:理科の免許を取得するための必修科目です。

農必一:農業の免許を取得するための必修科目です。

(「必一」が付された科目(物必一・化必一・農必一等)は、一般的包括的な内容を含む科目です。詳しくは教育職員免許状・各種資格の取得方法のページを参照してください。)

編入学生は当学科を選択できません。

測量士補資格申請に関係する科目については備考欄に下記のとおり記載しています。

測必・・・測量士補資格申請のための必修科目です

測・・・測量士補資格申請のための選択科目です

測量士補資格申請のためには、「測必」の科目と「測」の科目を合わせて30単位以上修得することが望ましいです。

動物科学・水産科学科 動物科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○											
	線形代数学入門		2		○										
	微分積分学入門		2		○										
	物理学入門		2	○										物必	
	化学入門		2	○										化必 1 (注1)	
	化学		2	○										1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実 (注2)
	基礎生物学実験		1		○										生実 (注2)
			2	5											(注3)
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語	2							○						
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○									
	統計的機械学習実践	2					○								
	卒業研究	8								○	○	○			
学科共通科目	動物科学・水産科学科概論	2			○									農	
	食料農学科概論		2				○								
	生命科学科概論		2							○					
	地域環境科学概論		2								○				
専門コア科目	動物科学総論	1		○											
	実験動物学概論	1			○									生	
	動物生産学	2		○										農, 人	
	基礎遺伝学	2		○										生	
	動物生理学	2				○								生, 食	
	動物生理学	2					○							生, 食	
	遺伝子機能学	2			○									生	
	発生生物学	2			○									生	
	動物解剖学	2			○									食	
	動物組織学	1					○							食	
	動物遺伝育種学	2				○								生, 人, 食	
	動物生殖学	2					○							生, 人, 食	
	家畜繁殖技術学	2							○					農, 人	
	動物栄養学	2				○								農, 人, 食	
	飼料学	2							○					農, 人, 食	
	家畜飼養学	1							○					農	
	草地学	2							○					農, 食	
	動物管理学	2						○						農, 人, 食	
	食肉科学	2							○					農, 人, 食	
	人と動物の関係学	2						○						生	
	家畜衛生学	1								○				食	
	動物科学実験	3						○						農, 人	
	動物科学実験	3							○					農, 人	
	牧場実習	1												農, 人	
	農学の総合知演習	1									○				
	専門サブ科目	動物園学		1											
		野生動物学		1											
家畜飼養学			1						○					農	
動物行動学			2						○					農	
牛乳科学・鶏卵科学			1							○					
臨海実習			1			○									
野生動物管理学			2							○					
森林保全生態学			2									○			
食品生化学			2							○					
計測解析科学			2						○						
水産生物学			2			○									
農業経営学			2					○						農, 食	

食品化学		2			○						化
食品微生物学		2					○				
バイオテクノロジー		2							○		
分子動物行動学		2							○		
天然物化学		2						○			
食品衛生学		2						○			農
食品機能学		2						○			農
生化学		2		○							
生化学		2			○						
水産食品化学		2			○						
必要修得単位数	65	33									
合計必要修得単位数	98										

専門基礎科目の履修について

(注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

(注2) 基礎化学実験、基礎生物学実験の2科目から必ず1科目以上を修得しなければなりません。

(注3) 専門基礎科目の選択単位については(注2)の実験を含め5単位以上修得しなければなりません。

その他の注意事項

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は10単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

印は集中講義での実施を示します。 印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必一・物, 化学:化必一・化, 生物学:生必一・生, 地学:地必一・地, 「物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験」:物実・化実・生実・地実)

農業:農必一・農

物必一・化必一・生必一・地必一:理科の免許を取得するための必修科目です。

農必一:農業の免許を取得するための必修科目です。

(「必一」が付された科目(物必一・化必一・農必一等)は、一般的包括的な内容を含む科目です。詳しくは教育職員免許状・各種資格の取得方法のページを参照してください。)

人:家畜人工授精師養成講習会(各都道府県が開催:卒業後に受講可能)における一部講義の免除指定科目。

食:食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得のため必要な科目。

編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

動物科学・水産科学科 水産システム学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○											
	線形代数学入門		2		○										
	微分積分学入門		2		○										
	物理学入門		2	○										物必	
	化学入門		2	○										化必 1 (注1)	
	化学		2	○										1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実
	基礎生物学実験		1		○										生実
			2	5											(注2)
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語	2							○						
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○									
	統計的機械学習実践	2					○								
	卒業研究	8							○	○	○				
学科共通科目	動物科学・水産科学科概論	2			○									農必	
	食料農学科概論		2				○								
	生命科学科概論		2						○						
	地域環境科学概論		2							○					
専門コア科目	水産科学入門	2		○											
	海洋実習	1			○										
	水産科学実験	1					○							生	
	水産生物学	2					○							生	
	水族遺伝学	2					○							生	
	水族生理学	2					○							生	
	底生生物学	2					○								
	水産食品化学	2					○								
	ミクロ経済学入門	2					○								
	水産科学実験	1						○						生	
	水産資源生態学	2						○							
	水圏生物多様性論	2						○							
	水産増殖学	2						○							
	水産物流・マーケティング論	2						○							
	数理漁業資源学	2						○							
	水産システム学演習	1								○					
	水産システム学演習	1									○				
	農学の総合知演習	1								○					
	専門サブ科目	水産植物学		2				○							(注3)
水圏環境学			2				○							(注3)	
水産微生物学			2					○						(注3)	
水産増殖学			2						○					(注3)	
水産資源管理学			2						○					(注3)	
水産食品加工学			2						○					(注3)	
水域自然環境論			2						○					(注3)	
水産政策学			2						○					(注3)	
海洋実習			1							○				(注3)	
地域水産業実習			1							○				(注3)	
魚類学			2							○				(注3)	
魚類発生学			2							○				(注3)	
酵素機能化学			2							○				(注3)	
環境経済学・資源経済学入門			2							○				(注3)	
水族遺伝学			2							○				(注3)	
水産生命科学特別講義			2							○				(注3)	
地域貢献演習			1								○			(注3)	
基礎遺伝学			2		○									生	
生化学			2			○									

教育職員免許状・ 各種資格の取得方法

教育職員免許状・各種資格の取得方法

1 教育職員免許状の取得に当たって

岩手大学の学科・課程のうち、教育学部の学校教育教員養成課程以外の学科・課程は教員養成を目的としていません。これらの学科・課程の学生は、教育職員免許状を取得しようとする場合は、正規の卒業資格単位のほかに教育職員免許法施行規則でいう**教科及び教科の指導法に関する科目**（教科に関する科目のほとんどの科目は卒業単位で代替できるが、学科・課程によっては代替できない場合もある）、**教職に関する科目**（免許の種類によって異なるが2.5単位～3.7単位）及び教養教育科目として開講している「**憲法**」2単位、「**健康・スポーツ科目**」から2単位、「**英語コミュニケーション**」**・**、「**中級ドイツ語**」**・**、「**中級フランス語**」**・**、「**中級ロシア語**」**・**、「**中級中国語**」**・**、「**中級韓国語**」から2単位、「**情報基礎A**」2単位を修得する必要があるため、相当な決意と努力が必要です。

取得すべき科目及び単位数等は、次ページ以降（人文社会科学部、理工学部、農学部）のとおりです。教育学部の学生は - 8ページ以降のとおりです。

獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。

・介護等の体験

教科に関する科目及び教職に関する科目とは別に、教育学部及び人文社会科学部の学生で**小学校及び中学校の教諭**の普通免許状を取得しようとする者は、障害者、高齢者等に対する介護・介助等の体験を7日間行うことが必要です。ただし、介護等に関する専門知識及び技術を有する者又は身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者は免除されます。

・各学部において課程認定を受けている教育職員免許状の種類と教科・領域

学 部	学 科 等	免許状の種類	教 科 ・ 領 域	
人文社会科学部	人間文化課程	中学校教諭1種免許状	国語、社会、英語	
		高等学校教諭1種免許状	国語、地理歴史、公民、英語	
	地域政策課程	高等学校教諭1種免許状	公民	
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教諭1種免許状		
		中学校教諭1種免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、英語	
		高等学校教諭1種免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、情報、音楽、美術、保健体育、英語	
		特別支援学校教諭1種免許状	知的障害者に関する教育の領域、肢体不自由者に関する教育の領域、病弱者に関する教育の領域	
理工学部	理工 学科	化学コース	高等学校教諭1種免許状	数学、理科、情報、工業
		数理・物理コース		
		材料科学コース		
		知能情報コース		
		クリエイティブ 情報コース		
		電気電子・情報通信 コース		
		機械知能航空 コース		
		社会基盤・環境工学 コース		
農学部	食料農学科	高等学校教諭1種免許状	理科、農業	
	生命科学科		理科	
	地域環境科学科		理科、農業	
	動物科学・水産科学科			

農 学 部

農学部では高等学校教諭 1 種免許状（理科・農業）が取得可能です。そのためには下記のように修得する必要があります。（注：生命科学科は農業の免許状を取得できません。）

基礎資格（「学士の学位」）を有している

下記に示した A 表から 26 単位と B 表から 35 単位以上の合計 61 単位以上を修得している

教養教育科目から決められた科目と単位数を修得している

（教育職員免許状・各種資格の取得方法（-1 ページ）を参照）

詳細については、1 年次前期に開講する「教職入門」で説明するので、**免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修申告のうえ受講してください。**

A 表 教職に関する科目及び修得単位数

	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名	履修年次	履修時期	最低修得単位数		
					農業	理科	
教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	1	前期	2	2
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	2～	前期	2	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規	2～	前期	} 1科目 選択	} 1科目 選択	
		学校経営・制度論	2～	後期			2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	1～	後期	2	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2～	前期	2	2	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2～	後期	2	2
		特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	1～	後期	2	2
	教育の方法及び技術 「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	2～	前期	2	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育における ICT 活用方法	3～	後期	1	1	
生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導	1～	後期	2	2		
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	1～	後期	2	2		
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習（教育実習事前事後指導含む） （注 1・注 2）	3～4		3	3	
	教職実践演習（中・高）	教職実践演習	4	後期集中	2	2	
A 表 小 計					26	26	

B表 教科及び教科の指導法に関する科目及び修得単位数

	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名	履修年次	履修時期	開設科目単位数による最低修得単位数		
					農業	理科	
教科及び教科の指導法に関する科目	理科に関する専門的事項	物理学	物理学入門			2	
		化学	化学入門			2	
		生物学	生物学入門			2	
		地学	地学入門			2	
		「物理学実験(コンピュータ活用を含む。)、化学実験(コンピュータ活用を含む。)、生物学実験(コンピュータ活用を含む。)、地学実験(コンピュータ活用を含む。)」	基礎化学実験 基礎生物学実験	}			このうちから 1
	理科の関係科目	(注3)				2 2	
	理科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		理科教育法	2 ~	前期		2
			理科教育法	2 ~	後期		2
	農業に関する専門的事項	農業の関係科目	(注3)			2 9	
職業指導		職業指導	1 ~	前期集中	2		
農業の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		農業教育法	2 ~	前期	2		
		農業教育法	2 ~	後期	2		
B表 小 計					3 5	3 5	
A表 B表 合 計					6 1	6 1	

(注1) 教育実習について

1) 教育実習は4年次の6~9月頃に2週間の日程で行います。実習校は原則として各自の出身高等学校とします。

3年次の4月下旬~5月上旬にガイダンスを行ったうえで、7月頃に、実習校への大学からの依頼文を配布し、希望者が実習校に持参することにしてはいますが、実習生の受入人数を制限している学校があるので、実習を希望する学生は、2年次の終わり頃に出身校に連絡を取り、受け入れ手続きの確認をしておいてください。

2) 実習のほかに事前指導(3年次・4年次)と事後指導(4年次)を必ず受ける必要があります。日程は掲示でお知らせしますので、注意してください。

(注2) 教育実習実施にあたっては、下記の条件を全て満たしていなければなりません。

- 1) 卒業見込の者(研究室配属されていること)
- 2) 教職に関する科目の単位の1/2以上(13単位以上)を取得していること
- 3) 教科に関する科目の単位の1/2以上(18単位以上)を取得していること
- 4) 実習で実施する教科の教育法を2単位以上修得していること
- 5) 「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得していること
- 6) 教育実習事前指導を受講していること

(注3) 理科及び農業の関係科目に対応する授業科目については、農学部専門教育科目履修表の備考欄の教員免許法上の科目の表示を確認し、所属学科(所属学科の他コースも含む。)の科目を修得してください。なお、所属学科(所属学科の他コースも含む。)で指定されている、免許を取得するための必修科目(「必」が記載された科目)を必ず履修してください。

教員免許状授与申請について

免許状は都道府県の教育委員会に必要書類を取りそろえて申請することによって授与されます。卒業時に岩手県教育委員会に一括して申請しますので、希望者は必要書類を学生センターA棟 番窓口に提出して下さい。

必要書類や提出の日程については冬季休業前に掲示します。

2 その他各種資格の取得に当たって

所属する学部・学科・課程等によっては、特定科目の単位取得と卒業をもって、各種の資格を取得できたり、資格取得のための試験科目が一部免除される場合があります。

取得できる資格等については次の表にあげるページを参照してください。

また、この「履修の手引き」に掲載されていない資格について講習会等が開催される場合もありますので掲示にも注意してください。

所属学部	資格等の掲載ページ
人文社会科学部	Ⅲ－４８～５０ページ
教育学部	Ⅳ－４３～６６ページ
理工学部	各コース課程表の注釈欄
農学部	専門教育科目履修表の注釈欄

国際教育科目について

国際教育科目について

1. 国際教育科目の理念と教育目標

岩手大学では、次の2種類の内容の「国際教育科目」を開講しています。

共修科目群

概要・目的：本学の海外交流協定大学からの交換留学生や日本語・日本文化研修留学生等と本学の学生が共修し、日本や国際社会についての知識を高め、それらについての討論、体験などを通じて、主体的に行動する態度を涵養することを目的とします。授業は日本語または英語で行われます。

対象：本学の海外交流協定大学からの交換留学生、本学の各学部 に在籍する日本人学生及び外国人留学生在が履修できます。本学の学部生がこの科目を履修した場合、専門教育科目の自由選択科目として卒業要件の単位が認められる場合がありますので、学務課に確認のうえ履修してください。

< 共修科目群リスト >

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講学期	備考
文化	Comparative Japanese History A	2	1	前期	英語
	Comparative Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese History A	2	1	前期	英語
	Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese Traditional Culture A - Ikebana A	2	1	前期	英語
	Japanese Traditional Culture B- Ikebana B	2	1	後期	英語
国際研修	海外研修事前事後指導	2	2	前期 後期	教養教育科目「海外研修 世界から地域を考える」履修者対象
	学内留学	2	2、3、4	後期	
	国際合宿	2	2、3、4	前期	集中

対象学年以上の学生が履修可能です。

備考欄に「英語」とある科目は英語で授業を行います。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講予定です。

講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

交換留学生専用科目群

概要・目的：本学に在籍する外国人留学生のために、初級から上級まで5レベルの日本語教育、および地域学や研究に関する国際教育を実施します。

対象：本学の海外協定大学からの交換留学生、日本語・日本文化研修留学生に単位が認められます。また、科目区分「日本語」の科目は本学に在学する全ての外国人留学生が受講することができますが、正規学部留学生には単位は認められません。総合科学研究科の正規留学生が「アカデミック日本語」*として登録した科目については単位が認められます。

< 交換留学生専用科目群 >

日本語

授業科目名	単位数	開講学期	備考
初級日本語総合	10	前期・後期	月～金×2 コマ
初級日本語総合漢字	1	前期・後期	月・木×0.5 コマ
初級日本語 会話	1	前期・後期	
初級日本語 表記・読解	1	前期・後期	
初級日本語 文法	1	前期・後期	
初級日本語 文法	1	前期・後期	
初級日本語 漢字	1	前期・後期	
初級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 文法	1	前期・後期	
中級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 読解	1	前期・後期	
中級日本語 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 作文	1	前期・後期	
中級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 文法	1	前期・後期	
中級日本語 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 アカデミック日本語	1	前期・後期	
中級日本語 読解	1	前期・後期	
中級日本語 作文	1	前期・後期	
上級日本語ビジネス日本語	1	前期・後期	
上級日本語アカデミック日本語	1	前期・後期	

国際教育

授業科目名	単位数	開講学期	備考
理系研究 A	2	前期	
理系研究 B	2	後期	
特別研究 A	3	前期	大学院科目
特別研究 B	3	後期	大学院科目
農学系研究	1	前期・後期	
農学系特別研究 1	1	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 2	2	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 3	3	前期・後期	大学院科目
芸術系研究	2	前期	
芸術系研究	2	前期	
芸術系研究	2	後期	
芸術系研究	2	後期	
芸術系特別研究	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究	2	後期	大学院科目
芸術系特別研究	2	後期	大学院科目
岩手学 A	2	前期	
岩手学 B	2	後期	
個別研究	2	前期・後期	文系・芸術系科目

時間割、単位数、履修手続き、試験、成績評価等については、「岩手大学における国際教育科目に関する要項」その他に定めます。

2. 履修方法および開設授業科目

履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、中央掲示板および国際課前の掲示等に注意して、間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については、当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部、学科、課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

その他プログラムについて

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（MDASH 認定教育プログラム）

本学は「岩手大学ビジョン 2030」の教育目標及び第 4 期中期目標・中期計画のアクションプランで「社会における様々なデータを数理・統計・情報を用いて解析し、社会における課題を発見し解決することができる能力を身につけるため教養教育と専門教育を融合させた数理・データサイエンス・AIに係る教育の体系化の確立」を掲げています。このアクションプラン実現のため、教養教育と各学部の専門教育では、数理・データサイエンス・AIに関する授業科目を開設しています。新しい時代の「読み・書き・そろばん」とされる数理・データサイエンス・AIに係る知識やスキルは、理系学部生の必須能力に留まらず、人文社会科学分野の文系の学生においても必須能力となっています。特に近年成長著しいAIは、今後の社会を大きく変革するゲームチェンジャーになると考えられています。このようなことから、本学では、在籍するすべての学生が関係する知識やスキルを習得し、実践的に活用できる能力を身につけられる教育プログラムとしています。

本学では、令和 4 年度に文部科学省から、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定制度(MDASH)による「リテラシーレベル」の認定を受けています。リテラシーレベルは、教養教育科目の必修科目で対応しているため、全学生が認定されます。また、MDASH「応用基礎レベル」の教育プログラムは、教養教育科目と各学部の専門教育科目で構成されており、学部の専門性を活かした教育プログラムとなっています。令和 6 年度には教育学部の教育プログラムが認定され、令和 5 年度入学生から適用されています。人文社会科学部、理工学部、農学部、獣医学部（令和 6 年度入学生までは農学部共同獣医学科）については令和 6 年度入学生から同教育プログラムを開始しており、令和 7 年度に認定されました。

なお、令和 7 年度から入学する理工学部、農学部の学生については、「応用基礎レベル」の科目がすべて必修科目となっています。「応用基礎レベル」の認定科目はいずれも基礎的な内容であり、データエビデンスに基づく問題解決能力等の実践力を形成するために、認定科目の多くを演習形式としています。選択的に履修することになる人文社会科学部、教育学部、獣医学部の学生の積極的な履修を期待します。

本教育プログラムにより身につけることのできる能力や対象授業科目、修了要件等は本学ホームページで確認してください。

リテラシーレベル



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/ds.html>

応用基礎レベル



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/mdash-AL.html>

IHATOVO グローバルコースについて

1. IHATOVO グローバルコースの理念と教育目標

岩手大学国際教育センターでは、岩手に顕在化する課題をグローバルな視点から理解し、解決に貢献し、発信する力の養成をめざし、「IHATOVO グローバルコース」を企画・運営しています。このコースの参加によって「知識・探求力」、「コミュニケーション力」、「人間力」を向上させ、地域社会、国際社会で活躍する人材を育成します。

2. コースの構成

コースは、A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践の4つのカテゴリーに分類された、授業および課外活動で構成されています。各授業、活動に参加すると、Global Mileage が付与されます。

A～Dのすべてのカテゴリーのいずれかの授業、課外活動に最低1つ参加し、一定程度のGlobal Mileage を獲得した者にはIHATOVO グローバルコース履修認定証を授与します。コース認定されなくても、Global Mileage の獲得実績に応じて表彰します。また、海外研修、留学などの際にインセンティブを与えることがあります。

3. コースの評価・認定方法

認定要件を満たした学生には、学長から認定証を授与し、記念品を贈呈します。また、毎学期、学年別にGlobal Mileage 獲得上位者を表彰し、記念品およびオープンバッジを贈呈します。

* 一定以上のマイル獲得後、海外研修、留学に行く場合は、海外派遣奨学金、留学のための語学検定試験の受験料補助などの奨学資金を支給します。

* マイルの獲得実績を、海外研修、留学等の参加要件(成績、単位数、面接評価等)に加えることもあります。

< 認定方法 >

1) A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践、の4領域すべての授業、活動をそれぞれ最低1つずつ履修、参加していること

2) マイルの合計が一定のマイル数に到達していること

ブロンズ = 800 マイル シルバー = 1200 マイル ゴールド = 2000 マイル

<認定基準>

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの3段階で認定します。

ランク	外国語	コミュニケーション	国際教養	実践	合計マイル数
ブロンズ	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	800マイル
シルバー	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	1200マイル
ゴールド	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	2000マイル

4. 履修方法および開設授業科目・課外活動

IHATOVO グローバルコース対象授業科目の履修については、国際教育センターホームページ、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび国際課（学生センターB棟）の掲示等で確認してください。

対象学年以上の正規学生が履修可能です。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講します。

講師の都合等により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

IHATOVO グローバルコース対象課外活動リスト及び詳細については、以下を参照願います。

<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/japanese-student/index.html>



イーハトーヴ協創コースについて

1. イーハトーヴ協創コースの理念と教育目標

岩手大学では、全学部の学生を対象とした共修プログラム（ ）「イーハトーヴ協創コース」を開講しています。

岩手大学（前身の盛岡高等農林学校）の卒業生である宮沢賢治の想い「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(Well-being)を受け継ぎ、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指し、岩手で生きる、岩手と縁のある地域の多様な方々との協創活動を通じ、心の豊かさとイノベーションマインドを併せ持ち、高い専門性と実践力を兼ね備えたレジリエントな人材を育成します。

（ ）共修プログラムとは？

自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学修するプログラムです。

（1）コースの概要

イーハトーヴ協創コースでは、教養教育科目を中心に、デザイン思考、マーケティング、プロジェクトマネジメント、課題解決型インターンシップなど、アントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成や、地域のイノベーションに必要な創造性やチャレンジ精神を高めるための科目、企業・自治体との提携講義を学部横断型で学びます。

さらに地域における実践活動（正課外）も併せて評価することで、専門性と実践力を身につけます。

これらの学修過程を可視化するため、「地域協創マイレージ」を導入し、正課教育に加え正課外活動を含めてポイント化し、履修・研修経験を段階的に評価します（地域協創マイレージの取得状況は「アイフォリオ」で確認することができます）。

（2）コースの受講対象者、登録・認定方法

- ・ 本学の各学部 に在籍する日本人学生及び外国人留学生（非正規生を除く）が履修できます。
- ・ コースは自動エントリー制であり、履修をするための特段の手続きは不要です。
- ・ コースに関連する科目の単位を取得した場合や、課外活動を実施し所定の手続きを行った場合、「地域協創マイレージ」が自動的に付与されます。
- ・ 修了認定要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。

2. コースの構成

（1）正課教育

「イーハトーヴ協創コース関連科目」に指定されている以下の科目から受講します。なお、授業科目には、必修科目とコア（選択必修）科目、選択科目の3種類があり、段階ごとに修得すべき単位数が定められていますので、注意してください。

なお、正課教育で取得した単位は1単位 = 50 地域協創マイレージに換算します。

コースの構成

必修・選択の別		科目名称	科目区分
必修科目		地域協創入門	教養（地域）
コア科目 （選択必修）	1単位	地域協創 A・B・C・D・E・F・G・H・I	教養（地域）
	2単位	社会連携学 A・B、 キャリアを考える A・B キャリアデザイン実践 地域課題演習 A・B・C・D インターカレッジ・フィールド実践演習	教養（地域/地域課題演習）
選択科目（教養）		コア科目及び探究知科目（環境科目、地域科目）・実践知科目（地域課題演習科目）から選択	教養（環境/地域/地域課題演習）
選択科目（専門）		各学部専門科目におけるイーハトーヴ協創コース関連科目から選択	専門

開講科目

イーハトーヴ協創コース関連科目リスト及び詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

対象学年以上の学生が履修可能です。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講する場合があります。

講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

（2）正課外活動

- 地域課題解決プログラム、学内カンパニー、NEXT STEP 工房など本学が実施・支援する実践活動プログラムや、イーハトーヴ協創ラボ（TOVLAB）及びグローバルビレッジ等でのイベント参加、他大学や他機関との連携プログラム等について、以下の基準に基づき「地域協創マイレージ」を付与します。

< 地域協創マイレージの算定基準（標準的な目安） >

正課・課外の別	主な事業	付与マイル数
正課教育	イーハトーヴ協創コース関連科目 1単位科目	50
	イーハトーヴ協創コース関連科目 2単位科目	100
正課外活動	単発型のイベント	10
	3日程度の短期イベント	50
	3日以上～1週間程度の中長期イベント	100
	インターンシップ、通年の実践活動（メンバーの一人として参画）	150
	長期研修・長期インターンシップ、通年の実践活動（リーダーとして参画）	300

地域協創マイレージの対象事業等の詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

3. コースの評価・認定方法

- ・ 修了認定要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。
- ・ 修了が認定されると、成績証明書の特記事項欄に「イーハトーヴ協創コース（受講中または修了）」と記載されます。
- ・ また、本学が提供する学習プログラム等の修了者に対してデジタル修了証である「オープンバッジ」を付与する予定です。
- ・ 大学時代に経験した実践的な取組を就職や進学の際にアピールするものとしての効果が期待できます。
- ・ 認定証と併せ、就職活動等に活用可能なコース概要説明書を発行します。

(1) 認定方法

- ・ イーハトーヴ協創コース関連科目事業における主な修得能力を5つのカテゴリーに分類し、それぞれの「地域協創マイレージ」取得状況に基づき評価します。

マインドセット
ツール
キャリア
アクション
専門知識

- ・ 各カテゴリーから、該当する授業、活動を最低1つずつ取得していることが認定要件となります。
- ・ マイレージの認定について、授業は自動認定されますが、正課外活動については、認定申請が必要となる場合があります。申請方法はプログラム毎に案内します。
- ・ 地域協創マイレージの取得状況については「アイフォリオ」で確認することができますので、随時活用してください。

(2) 認定基準

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの3段階で認定します。

ランク	正課教育		正課外活動	総取得 マイル数
	単位数（必修・コア）	単位数（選択）		
ブロンズ	必修2、コア2 （200マイル）	専門2 （100マイル）	100マイル	400マイル
シルバー	必修2、コア4 （300マイル）	教養2、専門2 （200マイル）	300マイル	800マイル
ゴールド	必修2、コア8 （500マイル）	教養2、専門2 （200マイル）	500マイル	1200マイル

4. 履修モデル

- ・ イーハトーフ協創コースを受講する学生に対し、カリキュラムデザインの参考としてもらうとともに、コースの認知度や有用性を図りたい個別のキャリア像を意識した履修モデルを複数提示します。
- ・ 履修モデルはあくまでも参考提示であり、学生はコースに指定する科目を自由に受講することが可能ですので、履修の参考としてください。

なお、専門科目については、原則、所属する学部の科目を受講してください。

各履修モデルの詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

5. 履修方法および開設授業科目

イーハトーフ協創コースの履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび地域協創教育課（学生センターB棟）の掲示等に注意して、間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については、当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部、学科、課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

6. 本件担当

地域協創教育センター（学生センターB棟1階）

<https://www.iwate-u.ac.jp/rcec/ihatov-course.html>



関係法規等

岩手大学諸規則

1. 国立大学法人岩手大学学則
2. 国立大学法人岩手大学大学院学則
3. 岩手大学教養教育規則
4. 岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則
5. 岩手大学における在学期間の特例に関する規則
6. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する規則
7. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する申し合わせ
8. 岩手大学転学部に関する規則
9. 岩手大学転学科及び転課程取扱要項
10. 岩手大学編入学取扱規則
11. 岩手大学編入学生の教養教育科目及び共通教育科目履修基準
12. 岩手大学再入学取扱規則
13. 岩手大学研究生規則
14. 岩手大学科目等履修生規則
15. 岩手大学外国人留学生規則
16. 成績評価基準について
17. 気象警報等の発令時等における授業等の取扱いに関する申合せ

関係法令（e-Gov 法令検索にリンク）

1. 日本国憲法
2. 教育基本法
3. 学校教育法
4. 教育職員免許法
5. 教育職員免許法施行規則
6. 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律